朝鮮金融業者大會（第一日）

朝鮮ホテルに於ける會議

朝鮮金融業者大會は十三日午前十時より朝鮮ホテルに於て開かれたり來會者は朝鮮全道の金融機關代表者並に招待せられたる内地、滿洲、支那の銀行代表者等百餘名にして荒井長官、宮木關稅課長、藤川稅務課長、入江理財課長、野坂穗積兩事務官臨席し十時半

▲開會 京城銀行集會所委員長水越理庸氏は主催者側たる京城銀行集會所を代表して大會開催に就て挨拶の辭を述べ朝鮮に於ける金融業者を網羅せる大會は今回を以て嚆矢とし朝鮮の金融機關の趨勢は隆替消長の間漸次發達の域に進み其の數に於て增加したるのみならず内容に於ても亦充實せりとて大體の進勢を說き尚ほ此機會に於て内地其他の銀行者が此機會に於て充分に朝鮮の實情を視察調査して内地其他に紹介し且つ將來に向つて朝鮮の金融上に付き教を垂るゝ所あらむ事を希望する旨を述べ

▲座長選擧 夫より開會に當り座長を選擧せむ事を諮るや第一銀行釜山支店長河野正次郎氏は内地に於ける先例に從ひ主催地の委員長を座長に推擧するを至當とするの意見を提起し滿場之に贊成し水越委員長即ち座長に推され茲に大會の成立を告ぐ

▲總督祝詞 此時寺内總督は山縣政務總監及び大藤副官を從へて臨場す、水越座長より大會成立の旨を告げて挨拶するや總督は別項の如き祝詞を述べ朝鮮に於ける金融機關の進歩發達の大綱を說き將來に對する希望を述べ内地滿洲より遠路來會せる諸氏の勞を謝する所あり

▲長官演說 右畢りて荒井長官は朝鮮に於ける金融機關發達の沿革を述べ併せて將來に對する希望を告ぐべしとて

「朝鮮に於ける銀行の經營は明治十一年第一銀行釜山支店の開設を以て濫觴とし爾來漸次朝鮮人側銀行の創始を見、第一銀行券の發行せられたる保護政治時代以前の狀況を說き次に財政顧問の招聘せられたる統監政治時代に入りたる當時に於て朝鮮經濟の狀態の頗る幼稚にして韓國政府の財政に窮乏し白銅貨の濫發に行はれ私鑄不正は隨處に生じ信用は失墜して取引は困難となりたる頃の金融の疲弊の狀態を述べ財政整理上の弊害を除き第一銀行に中央銀行たるの任務を負はしめたる次第より明治三十九年初めて小農工銀行の設立を見、地方小農民の爲めに地方金融組合を起したる等施設する處ありかくの如くして朝鮮金融機關は徐々に發達し四十一年には東洋拓殖會社の設立せられて亦た半島の拓殖に資する事となり更に金融の發達に伴ひ國庫金の出納其他財界の發達に伴ひ一の機關を必要とし券の發行を以て四十二年韓國銀行の創立を見た併合迄の趨勢を詳述し併合以來財政の整理改善一層良く行はれ經濟界は茲に面目を一新し朝鮮銀行は滿洲方面に對しても勢力内顯著なること、而して大正三年には農工銀行法及び金融組合條例の改正あり農工銀行は朝鮮に於ける農工資金の融通を以て主たる目的とするも當分の間普通銀行の業務を行ふ方針に在る旨を說き現在朝鮮に於ける金融機關は各種銀行を通じ本店の數十八、支店出張所數八十四、金融組合の數二百三十六ヶ所に、凡そ一郡に一ヶ所となり尚ほ今後增加すべき旨を述べて當業者が克く地方產業の發達に貢獻せし勞を多とし今後一層の努力を希望し最後に朝鮮以外の人々に一言希望すとて交通機關現時の發達は朝鮮と内地滿洲との經濟界に對し一層密接ならしめ内地及び滿洲の關係に在りて將來諸君の援助を俟つこと甚大なるにより各位は此の機會に於て朝鮮各般の視察を遂げ貿易其他金融事業の爲め今後一層の助力を望む」

と挨拶し長官の演說終りて座長は議事に入る旨を宣す

▲大會決議 議事開始劈頭第一京城支店長西村道彦氏は京城銀行集會所を代表して大會に提出せられたる決議案の趣旨を說明す議案如左

決議案

一 母國に於ける銀行業者との連絡を計り又母國よりの投資を誘致する目的を以て左の議決を爲す事

一 所に移牒し之をして其事業の性質に從ひ適當なる方面に於ける内地銀行團に紹介せしむる事

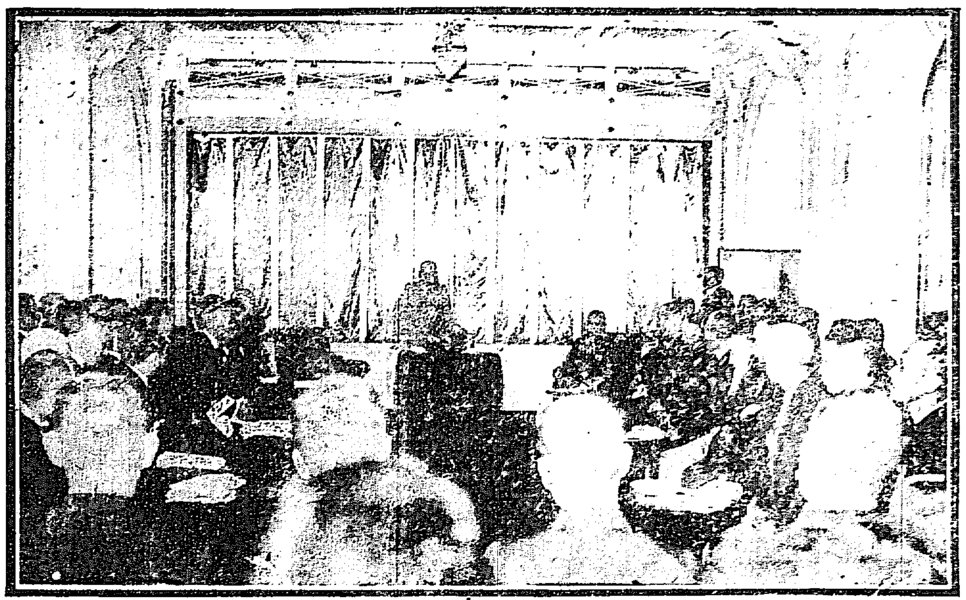
右の議案に對しては平安農工銀行支配人中西喜久雄氏より一括して附議せんことの意見を提出し之を承認したる上滿場一致拍手を以て可決す次に大連銀行取締役長濱敵介氏より「内地及朝鮮と同じく圓金位本制を滿洲に施行するを刻下の急務なりと認むるを以て内地及び朝鮮銀行團に右に關する調査を依頼するの件」を附議せんことを提案し說明あり、之に對し朝鮮銀行出納局長大田三郎氏の修正意見ありて之を修正し

（議案第三）内地及び朝鮮と同じく圓金本位制を滿洲に施行するを刻下の急務なりと認むるを以て内地及び朝鮮銀行團に右に關する調査を依頼することを京城銀行集會所に一任するの件

として議に附し異議なく承認可決し議事を終了す閉會に先だち十五銀行頭取松方巖氏は内地銀行家側を代表して此の大會に招待されたるを謝し挨拶を述べて正午閉會屋外に於て一同記念の撮影を爲し直ちに明月館に於ける京城組合銀行の招待會に臨めり

◎議案第一 内地に於て全國手形交換所大會開催の場合、朝鮮に於ける手形交換所も之に參加し得る樣京城銀行集會所をして交渉せしむる事

◎議案第二 朝鮮に於ける有望なる事業にして資金又は經營者缺乏の爲め其發展を見る能はざるの事情あるときは地方銀行業者に於て之を京城銀行集會



朝鮮ホテルに於ける金融大會 寺内總督臨場祝辭を述ぶ

▲寺内總督祝詞

產業を興進し民力を涵養するは朝鮮開發の目的を達する所以にして殖產興業を振作するが爲には特に資金運用の利便を圖らざるべからず然るに朝鮮に於ては古來金融機關として見るべきものなく只客主業者の存するありて僅に資金の融通を爲せしに過ぎず爾後内地銀行の朝鮮各地に支店出張所を設置するに至りて多少面目を改めたりと雖も未だ普及の域に達せず既にして政府財政顧問を置くに及び財政並に貨幣を整理し經濟の基礎漸く鞏固と爲り併合後凡百の制度改に一新し朝鮮經濟の狀態亦漸く發達の緒に就き政府亦各種金融機關の設立經營に對して極力保護獎勵を與へ内地銀行界の援助と相俟て稍や其の發達を促進せり即併合當時に於ける銀行數は本支店を合せて僅に七十に過ぎざりしもの今や一百有餘に增加し運轉資金總額も亦六千萬圓より一億圓以上に達し地方金融組合等の事業と相俟て產業資金の供給漸く潤澤を加へ各種の產業事業を逐うて著しく發達し農工業、水產業、鑛業等有ゆる方面に於て生產を增加し民力を伸暢して朝鮮貿易の隆昌を來し大正三年の貿易總額は實に一億圓以上を算へ輸入超過の趨勢を一變して今や輸出入の均衡漸次順調に向ひつゝあり是れ内鮮金融業者各位の克く此の間に處して朝鮮財界に效したる結果なるべきを信ず幸にして朝鮮は天惠の富源饒にして山は鑛物に富み海には魚鹽の利多く田野は悉く肥沃なりと言ふこと能はざるも灌漑耕鋤其の宜しきを得ば五穀稔らざる所なく山野河海の富源の開發せられざるもの甚多くして政府の施設又は民間の企業に待つべきもの將て算ふべからず從て内鮮金融界の發展に期待する所亦頗る切實なりとす之を以て朝鮮に於ける當業者各位は將來益々業務の擴張を圖り内地當業者各位は此の際親しく朝鮮の實況を查察して適切なる援助を與へられむことを切望す今や經濟情態は交通機關の發達に伴ひ獨り内地朝鮮間に止まらず更に滿蒙地方と有無共通の機運に向へり各位は此の機會に於て互に連絡呼應して鋭意國利民福の增進に努力せられむことを望む聊か希望を陳べて祝詞とす

◎農相晩餐會

河野農相は既記の如く十二日午後六時三十分より朝鮮ホテルに晩餐會を開きたるが來會者は寺内總督、山縣政務總監、川村師團長、各部長官、小宮次官、立花警務總長、閔李王職長官、各部局長、朝鮮貴族並に銀行會社の重役主なる實業家等百數十名に達し非常の盛會なりき

◎河野農相退京

農商務大臣河野廣中氏は既記の如く十三日午前八時三十分南大門驛發汽車にて歸任の途に就けり、驛には李王並に李太王兩殿下御名代、寺内總督、山縣政務總監、川村師團長、各部長官、局長、立花警務總長、閔李王職長官、小宮同次官、朝鮮貴族等多數の見送りあり、入見農務課長、不破事務官は同列車にて釜山まで見送りたり

共進會入場者

●十二日（火曜、晴）

▲晝間 八千九百八十五人

内地人	二、二六九	其他の外人	一八
朝鮮人	四、七七八	無料者	一、八八二
支那人	三八		

▲夜間 五千六百十三人

内地人	一、六一八	其他の外人	三三
朝鮮人	二、四五〇	無料者	一、四九〇
支那人	二二		

●合計 一萬四千五百九十八人

●開場以來累計 五十四萬八千零六十三人

人事消息

▲中御門侯爵 十三日午前門司發南行
▲澤柳文學博士 同上
▲高橋醫學博士 同上
▲井上六郎右衛門氏（代議士） 同上
▲瀧稍口領事 同上
▲堀田子爵 十三日入京奉天へ
▲小幡田習視（大邱府尹） 慶北より
▲米春 十三日入京
▲北里博士 十三日仁川へ
▲與倉三氏（京城各技師） 十三日仁川へ
▲岡部六郎氏（代議士） 十二日安東縣へ
▲門井少將 十二日
▲松元鶴龍氏（仁川府尹） 十三日より
▲齋藤金治氏（京城署長） 同上
▲吉田幸三郎氏 同上
▲上原辰三郎氏 同上
▲旭田富弼 十二日
▲深見伊兵衛氏（京都日之出新聞社長） 十
▲佐藤縣丸氏 十二日
▲大岡榮三郎氏 同上
▲山邑太三衛門氏 同上
▲井口中將（朝鮮駐箚軍司令官） 十二日夜内地へ
▲海寶中佐（同副官） 同上

南北言

ドッキンスクで露軍がウンと踏みこたへたにはヒンデンブルグも弱つて居るらしい▲マッケンゼンが一と息つくかと思ふ先づ大丈夫▲露西亞が一に激戰は續いて居る▲土耳古を援助して居る▲近い内に此處で大決戰が始まるのだらうが何となく危ない樣な感がする▲若し獨墺軍が突破して土軍と合して埃及に軍を破つたら何うする▲其の辣腕は直に波斯、阿富汗へ及ぶは必然▲印度は彼は困ろう居る▲英國の爲めには頗る痛手ぞ出してはゆつくりして居られまい▲支那では帝制延期の陰謀か騷ぐと要だらう▲英國では日本兵の出兵の議論再燃か▲今度は例の…が現はれたらしい▲又た日本に出兵…騷くなると何時も妙に日本の兵を聯合軍を助けて臭い▲云ふ方が聯合軍の氣勢も何となく續く程には見はるゝはお可笑い▲而うすると最近行はるべき大戰は矢張り巴爾幹と見ねばならまい▲之れで歐洲も大概戰禍を被らぬ處はないから戰後の講和談判は益々面白くなる此の際世界で一人得意になつて居るのは墨國のカランザ將軍で汎米會議から政府を承認されてホク／＼ものだらう▲袁總統も得意になりかけて居るが義兄弟分の徐國務卿の頑として隱退するには一方ならず弱つて居るらしい▲而し其の後任として股肱の揚士琦を國務卿にするとの評判だが心中聊か忸怩たる處もないではあるまい▲帝政反對の江西將軍陸榮廷氏は革職せられて王占同氏が襲任すると云ふまさか大騷動の迷言でもあるまい

南大門の廻米

各地商況

下關相場

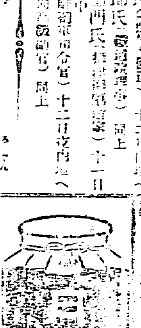
仁川米豆取引所 十二月の十二月限

朝刊と合せて八頁

發行所 合資會社 京城日報社 京城太平通一丁目

簡淨疎宕なる山川人物の描寫
明快透徹なる朝鮮側面の觀察
蘇峰學人著
平福百穗、山下鈞、鶴田樂村、柳田謙吉、前川千帆（五氏畫）
新刊發賣
兩京去留誌
四六版總クロース上製箱入 記事二七四頁繪畫寫眞三十二種 定價金壹圓五拾錢
著者の東京、京城間を往來するや其の幾回なるかを知らず。而も其の往來毎に感興愈々新鮮にして、其の秀聳の觀察と獨特の靈筆を揮つて兩京間の天然と人事を叙するや、雲烟飛動し人物躍如たるもの固より其の所なり。而して記する所單に兩京に止らず、或は途中過眼の光景を記し或は觸目の偶感を叙す。不用意の文字眞情流露し、而も簡淨疎宕の小品の妙を極む。特に『雲養集を讀む』の一文は、朝鮮の碩儒金允植子の人物と文藻を解剖して剩す所なく、『朝鮮統治の要義』は五十頁に亙る長文にして、著者の朝鮮統治に對する經綸を吐露して萬丈の光焰を揚ぐ。加之、平福百穗氏を初め諸畫伯の繪畫は皆實境に臨で描く所に係り、噛々眞に逼るの妙あり。體裁清雅高尚にして眞に几上の清賞に堪ふ。
賣捌所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

穗積先生還暦祝賀論文集
内容目次
菊判上製全一冊 總紙數一千二百四十頁 正價金參圓 送料 内地 金二十五錢 朝鮮 金三十錢
發賣所 東京神田一橋通町 有斐閣



地方社員

京城地方法院

イケダ小兒病内科醫院
院長 池田季雄
京城三越呉服店前へ入る旭町四丁目 電話（醫院）一二三四番（自宅）八八〇番

商業登記公告

商標 輕便電燈の一大發明
三矢本店
▲自轉車燈 ▲手提電燈 ▲特約店募集
東京市淺草區森下町二番地 三矢本商店

大共進會

朝鮮に輝く空界の覇者

高度一千六百米突に達し=飛行時間一時間十分に亘る

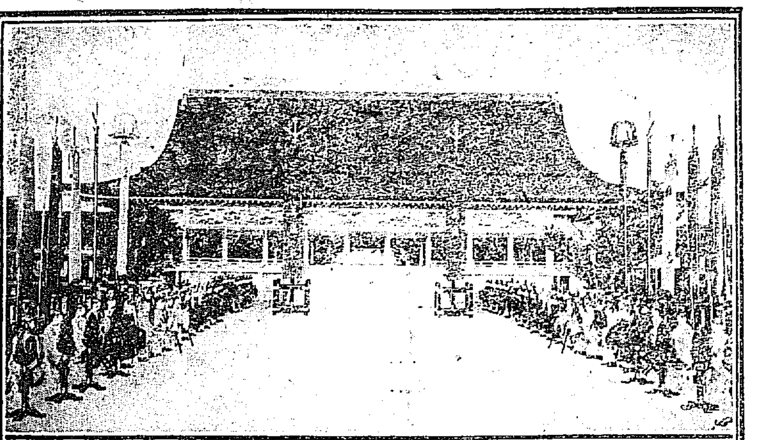
=十三日の京城訪問大飛行=

十三日朝は高空一碧片雲の漂へるものさへなく秋氣清く澄みて稍寒冷を覺えたるも無風靜穩近來稀に見るなりき

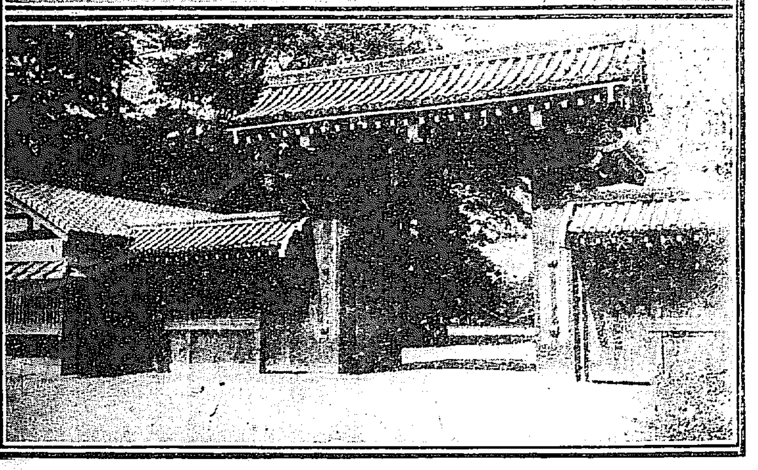
▲絶好の飛行日和 此の日尾崎行輝氏は未明より練兵場に現はれ飛行準備を整へ故障無きを認め遑々たる朝陽南山の頂きに輝やき初めたる八時二十五分朝空に響き渡る拍手喝采に送られて離陸、例の如く漢江々上に取つて飛翔、同所より機首を廻らして南山を掠め飛ぶと見るや機は非常なる勢ひにて上昇しつゝ爆々たるプロペラーの音のみ殘し

▲霧中に包まれ 終れり、斯くて共進會場の上空に達するや依然として一千六百米突の高度を保ち雲霧の間に三回の旋回飛行を爲し九時二十五分を過ぐる頃に約八百米突に下降して歸途に就き南大門上より麻浦に向ふに及びて白日を浴びたる機體は澄み渡れる蒼空に

▲その威容を誇る かに鮮かに剛しつゝ九時三十五分飛行場に着陸したるが此の日の飛行時間は一時間十分にしてその最大高度一千六百米突と共に京城に於ける新記録を作り出せるものといふべく尾崎氏にとりては大成功を收め得たるものといふべし



紫宸殿の即位式—上—（共進會内紫宸殿内模型）



御堺門—下—（堺御門）

變裝競爭

天勝一座で擧行

協贊會演藝館に出演中なる天勝一座は大入成功の祝として十八九日頃一座の變裝競爭を行ふことゝなりたり因に檢番聯合の變爭は中止せり

觀月デー

來る二十三日は舊暦の九月十五日にして仲秋の明月に相當するを以て京城協贊會にては當日を『觀月デー』とし先著入場者約一千名を限り月見團子を一串宛饗すべしと

婦人子供デー

十七日擧行に確定

京城協贊會の『婦人子供デー』は愈々十七日擧行のことに決定せり當日は日曜日なれば共進會の入場券二枚を要する筈なれども一般に特に一枚に大割引となし更らに婦人子供等に對しては景品として婦人には化粧品入れトランク子供には玩具を贈與する外協贊會前の角力館を設備して休憩所となし茶菓の饗應をなすべし、餘興としては特に晝間の演藝館を三時迄に切り上げ男子入場者を謝絶して三時半より五時半迄天勝一座の奇術、ダンス等を

婦人二十錢子供十五錢の入場料にて觀覽せしむる

外に普通興行も全部婦人子供に限り半額としブランコは子供に無料使用せしむべしと尚ほ場内東亞廣告塔下のエム寫眞館にては現に五十錢宛の割引を爲せるが當日婦人子供諸君に限りその上に二割引として場内にて撮影に應ずる由

選手の體格檢査

十七日慶會樓にて

協贊會主催の山野横斷競走に參加す可き者は十五日の締切前迄に申込をなし十七日午後一時より慶會樓に於て體格檢査を行ふ筈なり當日體格檢査に入場する者に對して協贊會より無料入場券を交附すべしと

欒頭目の首級

鳳凰城に護送さる

滿洲馬賊の大頭目欒六は既報の如く逃亡巡防兵三名の爲に殺害せられ其首級は八日午後鳳凰城鎭守使衙門に護送され馬將軍の檢視後衙門内に於て寫眞師に命じ之を撮影せしめたるが從來馬賊討伐が殆んど有名無實にて其功を奏せずとの理由にて屢々彈劾されし馬將軍も之れにて幾分安心の胸を撫下したる可し（安東特信）

金澤氏新生涯に入る

大阪の富豪金澤仁助氏は代議士候補に起ち選擧法違反に問はれ去る七日大審院に於て上告棄却の判決あり原審通り禁錮三箇月に確定し一件書類は大阪地方裁判所に廻附せられたる上同氏はいよく收監の運命に陷ることゝなり同氏も太く自己の不徳を悔悟し專ら謹愼し見るも氣の毒なる程面窶れしつゝあり今後は全然政治的野心を斷ち專ら慈善事業に獻身的努力を拂ひ富豪としての責務を盡さんと志し差當り世界に於ける明治天皇なる書籍一千部を購入し大阪府學務課の手を經て府下小學校を初め學校及公衙に寄贈する事とし既に現品を大阪府廳に引渡したりと（大阪支局）

各學校の運動會

京城學校組合の各學校は左の日割により秋季運動會を開催すべしと

▲十六日南大門、日出、龍山、▲廿三日高等女學校▲廿四日鍾路

□十四日の演藝館□

△晝間（京城券）

▲御代の榮 小菊、ひな子、千代香、梅子、百千代、花奴、貞伸、國香、春次、百合子、光枝、金花、花蝶、國蝶、若蝶

▲五條橋 小政、玉子

▲地方 若子、長吉、高奴、濱勇、小六、吉勇、かなめ、春榮、梅香、菊香、玉蝶、秀丸、一子、ちゑ子、國太郎、つぼみ、芳枝

▲妓生 四仙舞、相得舞、劍舞

△夜間（松旭齋天勝一行）

▲奇術▲魔術▲サロメ劇

えんげい

▲大正館の義士劇 大正館にては十四日より尾上松之助一座の義士劇を上場する筈なり

御大典まで

大阪支局 青霞生

三十六峰秋色濃かに、鴨川の流れ悠久にして明かなる千年の古都京の都に於て天皇御一代中最も大切なる大禮及び大祀を執行あらせらるゝ日は近づきぬ

秋の日麗かに、御所の甍を射り、瑞祥禮殿の内外を包み、實りの秋豊かに野も山も黄金色に染めたる蘊月十日、京都御所に最高莊重なる賢所御前の儀と即位式、十四日仙洞御所内に於ける崇嚴神嚴なる大嘗祭の盛儀、十六、十七日二條離宮に於ける華麗なる大饗宴の盛觀は今より想像するに餘りあり

△歷代の御大典

大古の事は史徴の據る可きものなけれど神武帝建國の始め即位の式を行はれたる事は明なり而かも上古のそれは極めて簡朴なりし

▲風俗極めて簡朴 なりしを以て其大典の如きも亦頗る質實にして後代の範となるべく具はれるものあらざりしは略想察するに難からず、降つて孝德天皇大化新政の際諸制度を總て唐制に擬せられ文物典章煥然として光彩を放つに及び即位の大典に於いても雄麗莊重の威儀を加へられたるや疑なし、而して踐祚即ち神器渡御の式と即位式とは各別々に行はるゝ事となりたるは蓋し

▲桓武天皇遷都後 に始まりたるもの、如く、神器授受は紫宸殿に於て行ひ即位式は大極殿に於て行はれたるも陽成天皇の御時大極殿が祝融の災に罹りしを以て特に豊樂殿を御式場に充て玉ひ冷泉天皇も亦紫宸殿を用ひさせられたるより此の事遂に定例となり歷朝之に準はせられたりしが其後皇室の式微と共に其事無かりしこと久しく德川氏に至り漸やく

▲大典復興の事成 るを得て孝明天皇が弘化四年に御即位式を行はせらるゝ迄續行し來り明治天皇は慶應四年一月二十四日を以て大典御擧行あり變革の際とて頗る簡素を旨とせられ高御座を安んじ奉る欄の如きも紙を貼りたる上に靈獸をゑがきて用ひさせられたりとさへ承れば其の儀禮の如きいかに御簡素なりしかは拜察し奉るだに畏し

▲而も明治の御代 は何れの方面より觀るも事物の興隆洵に眼醒しきものあり御即位式に就ても亦四十二年に登極令の御發布あり其森嚴にして莊重なる御制は萬世に之を傳へて渝らざるべく菊花の榮えは永久に芳ばしかるべし

△御大典の御儀

御大典につき天皇陛下には霜月六日賢所と共に東京の宮城を出でさせられ第一公式の鹵簿にて中央停車場に著御宮廷列車に召され名古屋離宮に御著御駐泊、七日同離宮を出でさせられ京都驛

▲御著第一公式鹵 簿にて烏丸通りを丸太町へ堺御門より京都御所に入らせられ八九日は御休息十日は東京宮城内皇靈殿神殿に於て即位報告の御儀あり京都御所内春興殿賢所の大前と紫宸殿に於て陛下即位の盛儀を執り行はせらるそは即位の御事を皇祖の神靈と一般臣民に御宣告あらせらるゝなり十一日は賢所の大前にて御神樂を奏し皇祖の神靈を慰められ十二日は伊勢神宮、東京宮城内皇靈殿、神殿並に全國の官國幣社に勅使御發遣

▲大嘗祭の儀奉告 あらせられ十三日は京都御所内小御所に於て玉體を鎭め長壽を神に祈らるゝの御儀を行はせらる、而して十四日は大嘗祭の當日にして伊勢神宮に奉幣（勅使）の御事あり、京都御所春興殿内賢所の大神饌供御終りて夕には悠紀殿十五日曉には主基殿にて親しく供饌の御儀あり同日御休息十六日は二條離宮

▲大饗宴場に於て 第一日の大饗、十七日は第二日の大饗及び夜宴を催され十八、十九日は御休息二十日は伊勢山田に行幸外宮に、二十一日は内宮に御親拜、二十二、二十三日は御休息二十四日は大和畝傍神武天皇御陵に二十五日は伏見桃山御陵、二十六日は泉山の孝明、仁孝、光格の三皇御陵に御親拜あらせらる、二十七日は滯なく

▲大禮を濟せられ 賢所と共に東京に御還幸あらせらるべく第一公式鹵簿にて京都御所御發輦京都驛より御乘車名古屋に御駐泊東京に御還幸遊ばさるゝなり

入場者には必ず當る抽籤（景品二萬餘點）

家庭博の大景品

臨時飛入の大景品が毎日現はれます

十三日より晝夜一週間

▲四等（一圓）並木町大庭虎起▲仁川東山農場馬場勇助▲寛勳洞黄河淵▲楊州郡張甲壽▲京城中學石橋數▲荒井洞林村重▲振威郡龐永降▲蓬萊町有きみ

が同館は大正四年度に撮影せしものにて在來のものより場數非常に多く全部七十三場五時間に渉る大寫眞にして巧みに實物背景を利用し居れりと

△御成座 十三日夜の藝題は一番目新野崎、二番目劇四季の夢四場にて出語あり

家庭博覽會

家庭博の大景品

一本も空籤なし=十三日午前の當選者=頗る奇拔な御景物

十三日より向ふ一週間家庭博では一本も空籤なしと云ふ福引的大景品を入場者に出すことにした、十三日は早朝から素晴らしい入出であつた入口で入場者自身が一本抽いて行くのだから頗る興味が深い、十時少し過ぎ入場した京城旅館に北宿中の周振氏と云ふ支那人が抽いた籤に一等が出たので周君大喜び直ぐ現金四圓を貰らつて儲かつたと云つてホクく\して居た、午後二時まで四等までの當選者は左記の十二名であつたが等外者にも東京大阪の大會社大商店から家庭博御祝として寄贈された品々を抽籤で進呈したので景品引換場は非常な賑ひ、殊に此等外の臨時の寄贈品がありて米一俵とか炭十俵、醤油一樽、味噌一挺とか云ふ奇拔な景品があつて何が出るか解らぬので一層の興味を曳いて居る此景品は晝も夜も向ふ一週間ありますから此機會を脱がさず是非御來觀を願ひたい、其れから今夜は昨夜同様正六時半から八時まで浪花館出演中の落語家三遊亭若橋橘家圓坊の兩人が後庭の舞臺に現はれて落語と踊を見せることになつて居る

午後二時迄の當選者

▲一等（四圓）京城旅館 周振氏

▲二等（三圓）長端郡 金基弘

▲三等（二圓）龍山元町瀧尾きく、清道驛杉本岩吉

種苗 目録進呈 大阪市外天王寺村 藤田丈太郎

大好評連日滿員!!
▲十九日迄引續き毎夕六時開場
サロメ劇 魔術 天勝一座
▲サロメ劇は十四日限り見遁す勿れ
共進會場内 京城協贊會 演藝館

石龍子の觀相

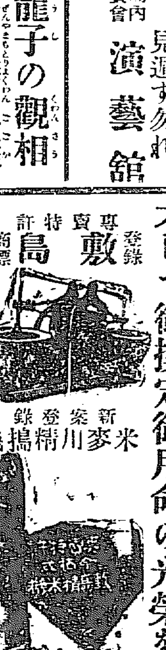
午前山本旅館=午後家庭博=十八日から日の出學校で夜間講演

入京中の性相家石龍子氏は十三日より一般の需めに應じ觀相を爲し居れるが過去の事現在の事未來の事等驚くべき的確なる觀察には孰れも舌を卷き居れり氏は午前中は旅館にて觀相し午後一時より四時頃迄は本社の家庭博覽會に來り階上の一室にて特に入場者に限り檢定料を低廉にして便宜を圖る事となれり又十八日夜よりは日出學校にて性相學の講話を爲し幻燈を用ひ詳細に說明すべしと

新進書家揮毫
室内裝飾用 油繪額面 月賦提供
新時代の美術品として和洋の室内を飾るに足るべき清新壯麗なる高尚優美なる金縁額面とし最も低廉なる價格を以て希望者に頒つ油繪は甲種七圓乙種五圓文明的月賦法にて最初現品を送付し七回月賦拂の便有
見本ハガキにて申込次第 附則書進呈
東京芝區芝金杉二丁目 日本新美會 電話芝四八八二番

金牌受領
上酒壹升に付四拾錢 御買上は特に割引可致
清酒美林燒酎 釀造元 京城櫻井町一丁目 中井酒造場 電話百七十七

千載一遇の名譽
今般橋式敷島精米機は本秋御擧行の御大典に膺り大嘗祭主基齋田米精白用として御撰定御用命の光榮を賜へり
專賣特許 登録商標 敷島
新案登録 米麥川精搗機



○朝鮮京城於共進會機械運轉廣告
共進會開會中毎日左の諸機械を運轉し實地作業を御覧に供するを以て必ず御來會御實驗の上御用命且御高評あらん事を奉希望候
◎今橋式自動敷精米機五連座運轉裝置 此精米石高拾時間六十石 糠集め小米篩別共自動取扱人一人足 五馬力 運轉
◎同大形（船米エンゲル形に同じ）一臺 此精米石高同上四十石 動力五馬力 運轉
◎同敷島籾摺機一臺 此製石高同上約四十石 動力一馬力半 運轉
◎製莚機 一臺 自由蔵付但以製共 此製莚高一日廿五枚以上 作氣實施
會期中店員數名會場及假出張所に詰切候に付御質問及御用命共被仰付度奉希望候
大阪市西區江戸堀北通三丁目 敷島精米機共外製造元 米穀精米及鐵工業 今橋芳松商店 電話土佐堀二八二番 振替口座大阪一四四〇九番
京城府旭町一丁目九四番地ノ四府廳西横手南上る川端 同京城假出張所

内科 小兒科 入院隨意
京城日出小學校前 多々見醫院 院主 醫學得業士 多々見五郎 電話九四〇番

仁川本町二丁目 百三十銀行仁川支店 電話四五八・一〇一番 振替貯金京城五五番

仁川本町三丁目 朝鮮商業銀行仁川支店 電話八四・一〇九 振替京城一〇六二番

仁川本町一丁目 朝鮮銀行仁川支店 電話一一番・三二一番 振替貯金京城三四〇番

仁川本町二丁目 十八銀行仁川支店 電話一八・九一八番 振替東京城二六七六番

商況

日本郵船 東株第一 東株第二 東新第一 [illegible]

東京債券現物特電（十三日正米出來高、前日との比較）

五分特別 五分甲號 一圓四分 二圓四分 甲五分 九六、八〇 九五、九〇

種類 宇治川水 神戸電鐵 京阪電鐵 [illegible]

大阪期米特電 [illegible]

下關期米特電 [illegible]

朝鮮物産特電 仁川白米 仁川上白 仁川中白 [illegible]

仁川現物市場 [illegible]

天氣 西の風晴 ▲十月十四日 [illegible]

陰暦九月七日 日出六時三十八分 日入 [illegible]

●奉天情信

袁氏踐祚期＝東三省代表者選定＝代表員の監視嚴重＝外人置產禁止

▲袁總統の踐祚期　六月代行立法院を通過せる國民代表大會組織法案は八日夜大總統敎令を以て公布せられたり外交團が推測する所にては既報の通り二十五日國民代表を選擧し十一月十日其の決定を爲し同時に二十日之を北京に召集して國體問題を即決し直ちに袁世凱氏をして帝位を踐ましむべしといふも實際に於ては種々の準備の都合に手間取るべければ矢張り袁氏の登極は來年一月一日となるらんと傳へられ居れり而して此國體問題を解決すべき重任にある國務卿徐世昌氏が袁氏とは義兄弟たる關係にありながら前淸の遺老たる所以によりて昨今病臥し頻りに辭任を請求するは大局を慮むる上に於いて袁氏の爲め聊か不利なるに似たるも不完の材なれど袁門の利維揚士琦の現職政事堂左丞として徐國務を代理すべければ所謂亂黨の中央地方を擾亂せざる限り民國改造帝政の前途は平穩無事ならんと信ぜらるゝが國民會代表大會召集に就きて政府は既に內務部に手續及び期限を各地方治安の維持を財政部に經費並に君主立憲後所要經費の支出を外交部に國體變更對外宣布の手續を各國に新國體承認の要求準備を命じ同時に全支陸海軍に發令して非常を嚴戒せしめたりといへり

▲國民代表選定令　北京政府は十日東三省に打電し軍民兩長協議の上廿日國民會議員の初選を行ひ二十五日其中より中央に開議すべき國民代表大會議員を該組織法により選定すべしと命令し來れるに就き段鎭安上將軍兼巡按使は早速其旨を管下各縣知事に轉電したり多分十二日省民大會開議の爲來奉せる各縣代表者を國民會議員に初選し更に國民代表に選出するならんと推斷せらる

▲省民代表者監視　國體改造帝政採用を請願せしむべく奉天の小南門裡春蓋旅館に召集しつゝある各縣代表者に對し亂黨が不測の危害を加へん事を慮れ段鎭安上將軍兼巡按使が兵警を派遣して保護しつゝあるは既報の如くなるも保護といふは只表面の體裁を繕ふ好辭に過ぎず實情に至りては十二日帝政採用既決の電請を北京に送るまで兵警をして各代表の行動を監視せしめ外部との交渉往來を禁止するにあるやにて各代表の旅費及び滯在費は一切官給としあり先は態よき拘留者たる有樣なれど代表者も固より帝政の謳歌者にて大概は舊官吏より選定せる事とてさして怨色もなく客舍の徒然に吸煙飲酒しながら豫定せられたる議案を通過せしむれば官憲より電請は中央に送らるべければなど、語りて案外暢氣なる言辭を弄し居れり

▲外人の置產禁止　支那政府は曩に皇族に公產處分權無き旨を主張し肅親王の外債を否却すべく共に地管理權を官沒したるが更に進んで今回は外人の內地置產を禁止し發生すべき葛藤交渉を避けんと欲し左の七件を立案せり近く決定各公使の手を經て本國政府の承認を要求し各省に通告實行すといふ

一、河川に外人置貨するを得ず
二、湖蕩は外人置貨するを得ず
三、公產は外人置貨するを得ず
四、民間の產業にして外人置貨せんとする時は先づ本管地方官に呈明すべし
五、製擾は本管地方より該管國衙を呈すべし
六、外人此制限に遵はざれば該管領事及は該國公使より處罰すべし
七、民間此制限に從はず私產を私售するものは製價三分の一を罰し河川湖蕩及公產を私售するものは盜賣律に照して加等治罪す

十二日夜の家庭博餘興
圓坊の孟蘭越後獅子（下）と若橘の落語（上）

●先月廣梁製鹽

廣梁灣九月中の製鹽概況を聞くに當月上旬は二日より七日迄晴天連續し蒸發も七、五ミリ以上の日多く天候概して良好なりしも中旬は九日に於ける一五、九ミリの降雨後を受け殊に曇天打ち續き從つて蒸發量も減少して五ミリ內外となり鹽の結晶減退し下旬は二十四日に一〇、ミリ二十六日に八、三ミリの降雨ありて蒸發量は四ミリ內外となり日射熱衰へ漸次秋冷の候と爲れり叙上の天候なりし爲め採鹽量も上旬は四百四十六萬餘斤なりしも中旬は百六十五萬餘斤下旬は百三十二萬餘斤に減じたりと

●電鐵開業期日

既報の如く釜山東萊間の電鐵は一日も早く開業せしめんと工事を督勵したるを以て昨今漸く八分通りを竣成し目下鐵橋工事に全力を注ぎ居るが開業期日は多分二十五日頃なる可く當日は總督府要路の官吏本道當局者及び朝鮮瓦電會社新舊重役等を重なる賓客として招待して開業式を擧行し直ちに營業運轉を開始すべしと

●產業技術員大會

慶北道にては來る十六日午前十時より道廳內に於て各郡產業技術員大會を開く出席者百餘名にして會後達城公園に於て大懇親會を開く由因みに各地より百餘名の參集者を見るは今回を以て嚆矢とす

●井口中將東上

駐劄軍司令官陸軍中將井口省吾氏は臨時派遣隊司令官陸軍少將白水淡氏と共に東北大演習陪觀の爲め十三日朝釜山通過內地に向け出發

●無所屬團視察

衆議院無所屬團大木、林、田村、重松、西田、原本、鹽澤、靑木の八代議士は十一日夜新義州著鐵道ホテルに投宿十二日午前中新義州を視察して同日午後七時四十七分發列車にて京城に向け出發したり

●演習部隊行軍

大立目大佐の率ゆる龍山步兵第卅五聯隊（第三大隊欠）及騎兵一部隊約一千の將卒は十三日より平康附近に於て施行さるべき旅團攻防演習に參加の爲十日午後五時鐵原著同地官民有志並に在鄕軍人團の歡待を受け宿營の上十一日午前六時平康に向て進發元氣旺盛なりき

●群山稅關課稅變更

群山稅關支署に於ては左記の通り課稅價格を變更し來る十六日より實施すべしと
大豆上一石五圓十三錢、大豆下一石四圓六十六錢、牛皮並百斤四十八圓

●群山小學運動會

群山公立尋常高等小學校に於ては十日午前八時より校前庭に於て秋季大運動會を開催せり御諒闇明け第一回の運動會なりし爲め頗る盛況を極め兒童父兄等は拂曉より續々と詰め掛け開會前既に父兄席は立錐の餘地無きに至り軈て定刻に至るや號砲一發山本校長開會を宣し各學年に分ちて嶄新なる遊戲競戲四十五番を演じ來賓及び各兒童等父兄の感興沸くが如く無事閉會を告げたるは午後五時なりし

●忠州雜信

公立忠州尋常高等小學校々舍新築寄附金募集總金額千六百圓認可の指令に接し學校組合事務所に於て七日評議員會を八日區長會議を開き募集方法につき協議したるが彈琴臺道路開鑿寄附金の獻納も十一月に遁り殊に民力拔弊の際なれば愼重の態度を持し一般住民の輿論に訴へ募集方法を決議すべしと▲堤川學校組合管理者奥田氏は江原道江陵に轉任するにつき辭表提出五日出發したるが後任者未定なるも公醫井上勇治氏就任すべく豫測せらる▲忠州郡殷政面私立通明學校を廢止し龍山里に公立普通學校を新設することゝなり新任校長田邊氏は八日來忠任地に出發せり

●連絡船上陸客

十二日午前入港對馬丸一二等乘客（一等）深見伊兵衞、中村新太郎、同登才、三島行賀巖、土岐嘉平、外人六名　二等（二十九名）旭日茜、關田民藏、小島啓次、同みつ、三輪政元、遊佐政雄、駒田季一、新藤三郎、生駒藤治、公文正史、杉本鶴吉、山本正夫、村上一松、同ひろ、村上巳二、森下長雄、吉田重太郎、田中俊助、草刈源助、松下俊太郎、同常二郎、市島吉太郎、古城しゆ、同朝彥、同雄次、藤井さく、有吉たず、木下鑒、同ふし、三等（百八十五名）

十二日午後入港高麗丸一二等乘客　一等（九名）白勢齊三、竹山正男、平山登次郎、高木彌次郎、上田喜兵衞、鈴木穗七衞、佐藤太助、福富亨之助、岡部三四、菊地郎吉、同こま　二等（六十九名）井上德三郎、伊藤庄八、西脇吉左衞門、關田隆七、金森太吉、吉田太助、武田安太郎、中北書七、八木幸助、牧田茂兵衞、三輪常七、同恵一、陸田敏、若山幸三郎、大島新之助、武田安、服部國三郎、堀田文三四、日比仁右衞門、岡田芳太郎、子安次郎、河村新吾、高木虎太郎、飯田國臣、小澤勝能、竹內賢定、矢野榮彥、後藤太助、近藤鍵治郎、淺井松兵衞、同喜七、下川彥雄、森島文七、瀨戶榮一郎、山本岩吉、舟松龜吉、加藤久次郎、竹內矢郎、小森乾城、久野春助、木下錦治、池田六衞、岡田耳三、分部要吉、中村彌平、小杉傳次郎、森貞文、小原信太郎、小林福川、木とと、同秀雄、松岡音五郎、阪崎平兵衞、松田秀氷、矢作榮藏、宍倉喜久禰、堀田恒、飯川愛郎、奈良重榮、飯島貞雄、野田正代、石田敬愛、平野よし、同はつゑ、田中とし、前濤ま、同ます子、山田淸次郎、同柳二郎、同きよ、田島とき　三等（九十五名）

演藝案內

壽館　電話一五〇番　町
東京落語歌舞音曲々藝桂三木助一行　▲十月十五日より晝夜二回開演　共進會を祝する爲め入場料（一等三十錢、二等二十錢、三等十錢）

壽座　電話五七八番　町
大阪若手俳優市川眼笑市川新昇一座
▲六日目藝題　前狂言　加賀見山古郷錦繪　中狂言　信州川中島輝虎配膳　切狂言　浮名橋嘯新ものゝ三郎

黄金館　黄金町四丁目　電話二六三七番

龍光館　龍山停車場前　電話（龍山）四一番

御待兼の大寫眞　天覽赤穗誠忠錄は愈々本日より大改訂を加へたる大正四年度新撮影
實錄忠臣藏　全通し
全十二卷勿驚映寫時間たつた五時間　●勅使饗應下命の場より泉岳寺本堂四十七士名譽の場迄全七十三幕　午後五時より切符發賣仕候
大正館

浪花館　明治町　電話二六〇番
●特別大興行　東京落語大一座　桂小南一行來る

有樂館　本町　電話二六六
新築落成

大正館　櫻井町　電話八七三番
●十月十三日より臨時特別大興行

御成座　電話二九一番
第三十壹回藝題　新野崎村（出語り）　四季の夢

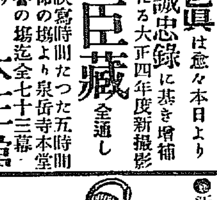
緊急公告
濟生會員ニシテ寄附金一千圓以上完納シ當府管內ニ居住スル者ハ十月十四日迄ニ便宜ノ方法ニ依リ當府庶務係ニ其ノ住所職業氏名通報アリタシ
大正四年十月十二日　京城府

胃病新藥　マーゲン
特約店　京城南大門通二　新井藥房
大阪上本町五　田畑保榮堂

自動車開通
芙江淸州間　毎日四回
淸州忠州間　奇數日
忠北淸州本町四丁目（電話五五番）
忠北自動車運輸組合

期米　取引確實・嚴守
定期米賣買之栞無代進呈　前金注文は紹介を要せず
大阪堂島濱通二丁目　大阪米殼取引所仲買人
久江商店

●新荷着アンクル式片側懷中時計



九形　鐵側	一圓九十錢
六形　同	二圓八十錢
一形　同	二圓八十五錢
六形　同　錂付	二圓六十錢
九形　同　時計	二圓九十錢
六形　ニッケル側	三圓五十錢
九形　同（機械表示）	八圓五十錢
八形　同	十圓
六形　同	五圓五十錢
三年形　銀側（彫刻）	二十二圓
形　同	二十四圓
形　鍍金（彫刻）	二十八圓
九形　同（銀七寶）	十六圓五十錢
七形　同（腕時計）	二十六圓八十錢
一形　同（十年保険）	十三圓八十錢
九形　金バリ	十八圓
八形　同	二十圓
六形　同	廿一圓五十錢
九形　十八金	百五十圓
	百五十五圓

右は今回新着の商品にて本商會獨り之を有し他店に無き所のもの伏して希はくば急速御用命を御待申上候

時計蓄音器、ミシン機械、自轉車、洋酒、各國貨直輸入商
イングレッシー商會
京城本町二丁目　電話九七二番

理想的完全無比の雨具
東京神田區東龍閑町九　見本定價表進呈
島村友三郎商店

かぜ　ねつ　最良藥
アンチピリン丸
蛇印

明治足袋
廣島市　三宅商會本店

優良石鹸
花の都
マスト石鹸發賣元
東京　大阪　野村外吉商店

冬物全部品揃
實際に特別御安く賣捌ます
京城明治町二丁目
唐川吳服店　電話二六一番
○市內は御注文次第直ちに品持參又は御伺可仕候
○地方の御注文は誠意を以て色柄等撰擇の上御送附可仕候

○飲み過ぎ○食過ぎ○消化不良○りうゐん○胸の痞へ○胸の痛み○慢性胃弱諸症に妙です
本舖　大阪江戶堀　猪飼史郎藥房
各藥店にあり

露西亞物產雜貨一式　歐米洋酒食料品　北鮮產石鹸石器類
元山府仲町　西澤商店　電話四六四番　振替京城二七四九

醇良淸酒　白鶴
仁川本町三丁目　增本酒店　電話一〇九番　振替京城六一九番

株式會社　第一銀行京城支店
資本金　貳千百五拾萬圓
積立金　九百廿五萬圓
京城本町二丁目（振替貯金京城一一番）
頭取　男爵　澁澤榮一
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
內地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候

大阪株式特電

公債直取引（十三日出來値段・前日との差）

越後大評定

第十二席 早川貞水口演

小性姿は實は古狸

今や青山源之丞が、徐々近寄いたる時にお愛が「左様お待し下さるならば、其身を此方へ御同道……」○さてはお愛殿、拙者の心にお從ひ下さるか 愛『それ程までお慕ひ下さる御心に、何故で從はずに居られませう』にやり笑つて手を延し、源之丞の右の手をグイッと取り 愛『此方へ御入來あれ』言はれて青山源之丞ぐにや〳〵となり ○『然らば何れへお愛殿 愛『サア此方でなければ人目にかゝります、お前の御寢間まで御入來下さい……』エイッ滝へ捨いてズドウーン、片膝ついたかと思ふと、向ふへ投げた、不意を打たれて源之丞向へドシーンと打付けられる、いきなり襟髪とつて押へ付け、用意の懐劍抜く手も見せずブツ、キャーッ短刀の切尖は根太板深く突抜いたれば、其まゝ其物を縫徹して以前の御部屋へ戻ると、清らかなる聲を發して、論語を朗々と讀んで居られる、夜が明ける、昨夜のような晩には、心すお愛は化物に喰はれたらうと、築山樣御内命に依つて、御殿の御女中兩三名、三の側の長局へ來りますと、御物置の戸が一枚開いて居る。思はず覗いて見ると、四邊は血潮、アット一同の女中、愕然しながら見ると、半面斑白にして、尾が二筋に岐れた、六尺もあらうと云ふ狸が、短刀にて根太板に縫徹されて、其のまゝ息絶えたる容子 ○『イヤ大變で御坐います、アレ御覧じろ、あの狸、恐ろしきところの化狸で御坐います』と云ふ間に、御殿中の騒動となり、何者の所業なりやと云ふ、サア此事が御殿へ知れましたから誰も彼も來つて見る、今まで人を取喰つたるは此狸であらう、ても恐ろしき狸、何年經たるか分らぬ、尾は二筋になつて、白く禿つて居る、恐ろしき化狸である』と云つて、孰れも恐れぬ者はない、段々取調べると、お愛殿が『昨夜御小性の姿を致して妾に無體の戀慕、怪しき物と存じまして、此お座敷に於て、一刺して衝殺しまして御坐る』と大丈夫の魂、面に表はれ、聊か誇る氣色もない、イヤ人々みな舌を卷きました、サア築山御殿の御女中、みな戰慄へ上つてお愛に無禮をする時は、どんな酷い目に逢ふも知れぬと恐れをなし、流石の築山御前も『アヽ恐ろしき女よ』と思召し、敬して遠ざける氣味、この事が家康公に分ると、愈々御執心深くならせられ『アヽどうも頗る手際である』と思召し 家『コリヤ源之丞『ハッ』是は青山源之丞と云ふ者で、男自慢で御坐いますが尤も好い男 家『コリヤ其方、未だ無妻ぢやな 源『恐れながら未だ定まる妻も、縁談も是なく 家『尤もお方の父、易に妻は迎へさせまい、併し予が仲人をして娶らして遣らう 源『有り難い仕合に御坐います 家『當時三の側の長局に居る佐衛門佐の娘、愛を存じ居るか 源『ハイ、先頃御殿へ御奉公、ゑらい力量にて、長年御殿に仕へ居りまして、人々を惱し人命を絶ちましたる古狸を退治、天晴勇婦の聞え高きお愛殿なら、能う承知して居ります 家『如何ぢや、其方愛を妻にする積見はないか 源『誠に有難い仕合せに存じますが手前ごときが、なか〳〵お愛殿を 家『イヤ苦しうない、今晩予が許す、其方愛の部屋へ入り、其方の手際を以て、お愛心に從はせえ左様あれば予が媒妁して夫婦にして取らする 源『ハア恐れながら今晩お愛殿の部屋へ、私自身に參りまして 家『苦しうない、予が許す 源『ウヘー!有難き仕合に御坐います』心中喜んだ源之丞『占めたな、それなら大丈夫だぞ、何しろ巳の男前で、彼のお愛殿、よも厭とは云ふまい』

大割引 自動車
新羅一千年間の舊都(朝鮮慶州の奈良)に遊べ京釜線大邱驛より快走タツタ二時間と半!更らに一時間にして迎日灣浦項港に達す

共進會最上のおみやげ 滋養大 乃木餅 一箱十五錢 美味腐敗せず
京城本町壽舘前乃木餅屋 電話二七五二へ御注文迅速御届し升

讀者文藝(一等には五十錢の普通切手贈呈)

俳句題『花芙蓉』

花芙蓉良き妓育つる嵯峨の家(一等) 鍾路通臨井町三六の一 岡部斉子

○土塀より見ろ石塔や紅芙蓉 京城 波月
○日に浴す病後の宿や白芙蓉 京城 米晩
○芙蓉切つて圖入得たり鉋 扶餘 奈帆
○朝顔の籬いて咲く芙蓉 龍山 鬼骨
○紡錘拋つ女や主や芙蓉明かり 大田 風骨
○小雨折戸昼黄白き芙蓉かな 沙里院 露花
○月冷えて境内の芙蓉濕ろゝかな 沙里院 白風
○屋敷町庭鼓として白芙蓉 大邱 外
○芙蓉晴れ籠の鳥雲に心あり 大邱 玉川

次週俳句題『秋祭』一人一句 投書來る金曜日

皮膚科
入院隨意(診察夜九時迄)
皮膚病 黴毒病 淋病 膀胱病 生殖器病 機能障碍
京城明治町二丁目(元旭町) 佐藤醫院 (電話一一七三番)
日曜祭日午後二時迄

十月十五日九星 舊九月七日 己卯 本命九紫

▲九紫 高飛車にくる事有日 新事見合他方は吉 ▲一白 頭を悩ますこと有注意 新事手控 ▲二黒 女難失物に用心の事 ▲三碧 位の増す日 轉居入門求職 名弘建築探訪 金談婚禮等吉 ▲四緑 心の美なる日 轉居開業等萬事進で利有 ▲五黄 成功の日 轉居入學等皆吉 女子は淑徳を知られて立身を促す 頗る振ふべき日 ▲六白 胡魔化しの事有日 新事手控萬事は買物に用心せらるべし ▲七赤 閉口すること多き日 新事手控萬事は衛生に注意せらるべし ▲八白 運開く日 轉居入學金件名弘求職婚禮等萬吉

公告 京城地方法院

左ノ不動産ヲ左記ノ日時ニ於テ競賣ニ附ス競賣保證金ハ申出額ノ十分ノ一トス

(一)京城府禮智洞百二十番地 五十二坪 最低競賣價額金二百八圓也
同地上建設 木造瓦葺平家建本家一棟 建坪二十四坪二合四勺五才 最低競賣價額金二十五圓五十錢也
右競賣申立人 朴盛仁 不動産所有者 姜大馨

(二)京城府黄金町一丁目四十五番地 七十五坪 最低競賣價額金八十二圓五十錢也
同地上建設 木造瓦葺平家建本家一棟 建坪二十一坪四合 最低競賣價額金一百八十三圓也
右競賣申立人 全德洪 不動産所有者 全秀

(三)京城府本町五丁目二十五番地ノ二 百九十六坪 最低競賣價額金五百九十二圓也
右競賣申立人 日韓殖産株式會社 不動産所有者 伊藤友松

(四)京城府鍾路二丁目六十四番地 五十六坪 最低競賣價額金一千四百圓也
同地上建設 木造瓦葺平家建本家一棟 建坪二十八坪八勺 最低競賣價額金一百六十八圓四十八錢
右競賣申立人 延永 不動産所有者 高

(五)京城府旭町一丁目二番地ノ一 木造瓦葺二階建本家一棟 建坪四十四坪 外二階四十四坪 最低競賣價額金一千二百七十五圓五十五錢也
右競賣申立人 釘本藤次郎 不動産所有者 淸田淺藏

(六)京城府旭町一丁目二番地ノ一 木造瓦葺平家建本家一棟(一) 建坪三十九坪五合七勺 最低競賣價額金二百四十六圓八十錢也
同番地 木造瓦葺平家建本家一棟(二) 此建坪二十八坪五勺 最低競賣價額金二百二十八圓也
同番地 木造瓦葺平家建本家一棟(三) 此建坪二十一坪八合二勺 最低競賣價額金一百七十四圓五十錢也
右競賣申立人 岩田仙宗 不動産所有者 淸田淺藏

(七)京城府清雲洞六番地 一千三百五十七坪 最低競賣價額金五百四十二圓八十錢也
地上 木造瓦葺平家建本家一棟 建坪七十八坪五合六勺
同附屬 木造瓦葺平家建一棟 此建坪四十一坪一合八勺
同上 木造瓦葺平家建一棟 此建坪四合四勺
木造瓦葺平家一棟 此建坪十四坪 最低競賣價額金一千二百三十三圓也
右同所同番地 木造瓦葺平家建本家一棟 此建坪十坪八合四勺 最低競賣價額金八十六圓七十錢也
京城府清雲洞五番地 一百三十五坪 最低競賣價額金五十四圓也
京城府清雲洞七番地 田一千四百二十三坪 最低競賣價額金四百二十七圓也
京城府清雲洞(舊北部白雲洞) 山地五千七百十三坪九合八勺五才 最低競賣價額金七百七十六圓也
京城府清雲洞(舊北部白雲洞二十統) 宅地四十坪五合 最低競賣價額金六圓七十錢也
京城府清雲洞(舊北部白雲洞二十統) 宅地三十八坪七合二勺 最低競賣價額金五圓八十錢也
右競賣申立人 朝鮮實業株式會社 不動産所有者 金嘉鎭

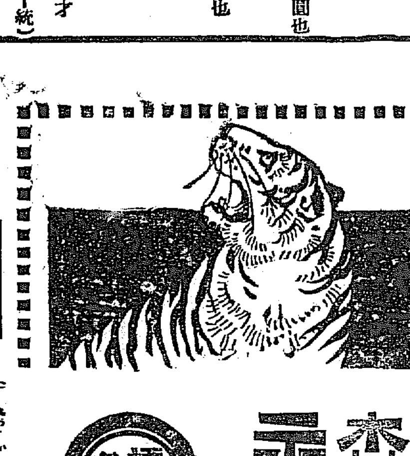
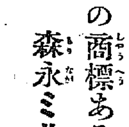
(八)京城府三坂通三十八番地 二十二坪也 最低競賣價額金四圓六十錢也
同府同町三十九番地(二) 二千四百三十三坪 最低競賣價額金五百十三圓也
右競賣申立人 デー・エチ・ブライエン 不動産所有者 金東緒

(九)京城府南米倉町五十八番地 百十四坪 最低競賣價額金九百十二圓也
同地上建設 木造瓦葺平家建本家一棟(一) 建坪九坪五合 最低競賣價額金三十九圓也
同所 木造瓦葺平家建本家一棟(二) 建坪五坪七合二勺 最低競賣價額金二十二圓八十八錢也
同所 木造瓦葺平家建本家一棟(三) 建坪二十二坪一合二勺 最低競賣價額金八十八圓四十八錢也
同所 木造瓦葺平家建本家一棟(四) 建坪七坪九合五勺 最低競賣價額金三十三圓八十錢也
右競賣申立人 大坪文吉 不動産所有者 大關鶴松

右競賣期日大正四年十月二十日午前十時トス

東京帝國大學藥學専攻 藥學得業士金澤嘉藏製
四日分卅錢 一週分一圓五十錢
ニキビ、吹出物、カユガリ、油顔、赤鼻其他皮膚ドス黒く色澤悪き等は概ね體内胃腸の變化より生ずる一種の毒素に原因す故に之を治療するには内服藥を以て體内より驅除するを可とす是れ現今皮膚病學上の趨勢なり本劑は此の學理に基き製造せる也
三錢切手封入本紙名記入申込次第實効公示の爲め無代送藥
東京根岸寺院殿 金澤嘉藏 電話下谷三五九番

宇治茶通信販賣
●煎茶五十錢以上一圓迄六種 ●玉露一圓以上三圓迄五種
右品御望の方はハガキにて御注文を乞ふ引替小包にて迅速送呈す 茶銘十錢は御一報次第進呈 但一圓五十錢以上の送料弊店負擔
山城國宇治町 製造元 奥村大正園 振替大阪三三一九八番


猛虎一聲山川搖ぐが如くに
森永ミルクキヤラメルの
賣行旺盛なるは
現代製菓の四大要件たる風味、消化、滋養及清潔を完全に具備せるが爲めなり
煙草代用
◎ニセモノに御注意の上


此の商標ある
森永ミルクキヤラメルの御愛用を乞ふ

六十入 金十錢
小入 金五錢
東京 大阪 森永製菓株式會社

東海に不老不死藥を求めたる
秦の始皇帝
今若し在らば日本の
體育保全 補血飲料
フエロール
(譯名…滋補)を得て滿悦せらるゝならん
理想的靈藥として愛用せらるべし
美味は老若男女の嗜好に適し凡ての人の
効力は病者も健康者も常用して
精力増進無病長壽の目的を達せしむ!!

適應諸症
●産前産後 ●老衰肺病 ●胸膜神經 ●消化不良 ●食慾不進 ●病後補血 ●貧血虚弱 ●神經衰弱

▲大瓶(約半ヶ月分)金一圓八拾錢
▲小瓶(約一週分)
◎用量一日三回 酒盃に一杯宛
創業元 大日本大阪道修町 藥劑師 小西久兵衛
賣捌は各藥店食料品店にあり

何所へ往つても
ツル香水が
先づかほる

仁川期米 大阪前

▲十三日前場

市場雜聞

▲前場小甘し

▲保合岐れ如何

○釜山(十三日の穀物)

○朝鮮白米も氣重し

場 前 寄 高 安 引

十月限 十一月限 十二月限 出來高

京城日報

年中無休刊

(第二千九百十一號)

發行所 合資會社 京城日報社 太平通一丁目

桂公と帝國主義

―東洋協會講演會講演腹稿―

徳富猪一郎

三、武力誅求主義と人道綏撫主義

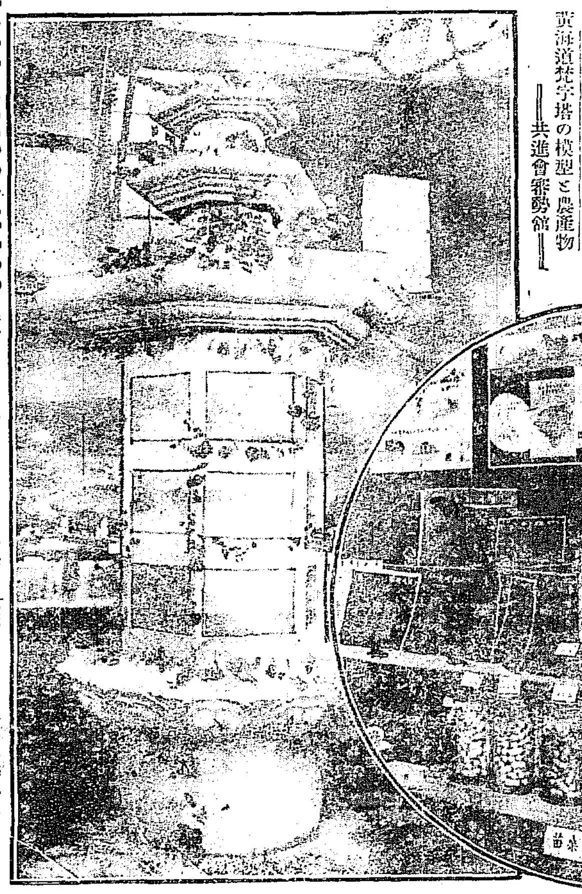
等しく帝國主義といふけれども、一は武力誅求主義であり、他は人道綏撫主義である。或はまた何れとも分たず、時に前者たり時に後者たるものもある。露の如き、獨の如きが此れである。露國人が猶太人を虐殺し、獨逸人が波蘭人に對する武力暴壓の政策を採つて居るが如きが其の一例である。又、西班牙、葡土牙等の如きは、一時其の勢力を部の内外に張りたるも、徒らに誅求主義を事とし、今日では見る影も無きものとなつた。和蘭若くは上古史のカルセージの如きも、矢張り、誅求主義の仲間たることを免れぬ。之に反して、古への羅馬及び今日の英國の如きは人道主義といふことは出來ぬが、少くとも綏撫主義といふことは出來る。羅馬が世界的大帝國を作つたのも、一方には軍隊を要所に配置し、巧みに軍用道路を作り、其の防備に於て遺憾無く、其の秩序の維持に於て遺算無きによるが、又た他方に於ては羅馬の政治が慈仁といふことは出來ぬが、少くとも公正の政を行ひ、所謂一方には兵力を用ゐ、他方には善政を敷き、隨所の人民をして、羅馬帝國の民たるを樂まざるまでも、安せしめたる結果であるものと思はれる。英國の南阿政策の如きも、極めて不徹底のものではあるが、しかし、窮極するところを見れば、彼は只武力を缺ぎたる現代の羅馬帝國にして、前垂掛の羅馬人といふても宜からう。英國が十萬に足らぬ人を以て、三億に餘る印度人を治め得る所以の一は善政である。英國の印度に於ける政治は、印度人から見れば不平に堪へぬこともある。しかし印度人彼自身が印度を治めるよりも、英人によつて治めた方が更に好結果が有る。語を換へて言へば、今日の印度は英人の手によつて治めらるゝを最も便利として居るものである。之が即はち、英國の帝國主義の本領である。ある例へば、今日、南阿聯邦の首相ボタ將軍の如きも、南阿戰爭の當時は、所謂刀折れ矢盡きるまで、英國に向て最後の抵抗を試みたものである。しかるに、一端英國が南阿共和國征服の目的を達するや、忽ち之を綏撫し、ボタの如きは、特に英國皇帝の寵遇するところとなり、樞密顧問の榮職を帶びて、今は南阿聯邦の首相として、威權を振ふて居る。そこで、英獨開戰の當時に於いて、獨は英の諸殖民地が、秋風の枯葉を拂ふが如くバラ〳〵と落ち行くものと思うて居たが、案に相違して、南阿聯邦の如きは、偶々一二の謀叛者があつたけれども、忽ちボタ將軍の爲めに討平せられたるのみならず、却て、阿弗利加に於ける獨逸の殖民地さへも殆ど英國より捲き上げられたのである。

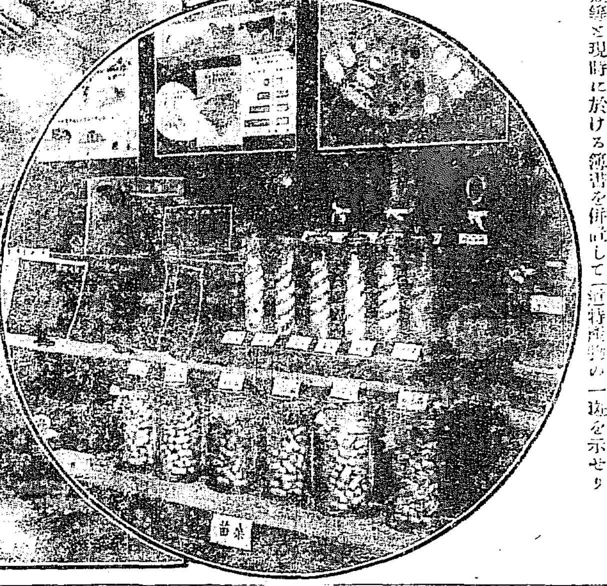
我が帝國の所謂帝國主義なるものは、片手に劍を携げ片手に日耳曼特種文化を普及するを口實とする獨逸流の帝國主義でも無く、又、血も肉も悉く蛭の如く吸ひ取るところの西班牙葡土牙流の帝國主義でも無く、又、算盤片手に領土を擴張する英國流の帝國主義でも無く、日本には日本固有の帝國主義がある。其れは、武力の必要の時には武力を用ゐ、政策の必要の時には政策を用ゐ、商業なり、移民なり、文化の普及なり、時の宜しきによつて之を用ゐて行くが、要するに、取らんが爲めの帝國主義に非ず、與へんが爲めの帝國主義である。取つて自ら食ふのでなくて、我が有つてるところのものを他にも押し進め與ふる主義である。即ち朝鮮併合の如きも事實の上に、此主義が行はれたるものと見て差支ないのである。之を約言すれば、人道綏撫主義と云ふてもよからう。

大共進會 出品概觀(茜)

審勢舘(黄海道)

水産は六百三十里に亘る海岸線を有せる事とて本道の最も誇りとする所の一なり、在來の漁法は頗る拙劣にして漁具亦粗笨なりしが爲め成績の見るべきものなかりしを以て先づ漁船の改良を企て併合當時二百二十九艘に過ぎざりしもの今や八百九艘の改良漁船を算するに至り、漁獲高に於ても十六萬五千圓なりしもの七十六萬圓、四倍強に激増し、石花菜のみに於て三十五萬圓の收穫あるに至れり、養蠶に在りては桑苗改良蠶紙の配付、稚蠶共同飼育其の他育蠶方法の改良、改良蠶具の配付、販路の斡旋等により著しき成績を擧げ、收繭高四百十石の内改良繭九十石に過ぎざりしもの今や三千八百石の收繭に對し改良繭二千六百石を産するに至れり、其の他畜産に在りては併合當時牛五萬三千頭を算せるもの八萬一千頭に進み、林業に在りては三萬二千二百餘町歩の造林地を見、林産物に於ても二百七十三萬圓を算し、教育に在りては小學校及び普通學校を合せ十二校、書堂八百六十四人なりしもの三十六校二千八百六十八人を算するに至れる等各般の施設に亘りて顯著なる發達を示し一として當局苦心の蹟を語らざるもの莫し





黄海道梵宇塔の模型と農産物 ―共進會審勢舘―

審勢舘(平南)

慶尙南道に隣りて精緻なる乙密樓の模型により絶えず觀察者の歩を止めしめ居れるは平安南道の陳列場なり、場の三面に續らせる壁畫は西より順次に成川地方、平壤附近及び鎭南浦の全景にして輸畫には地理の一般を窺はしむる爲め著名の地に一々小札を以て地名を付し、成川風光の諸下には道路模型を据ゑて改修前後の道路狀況を示し五箇年間に於て土木費總計四十四萬圓、夫役百五十四萬人を費し一等道路四十八里、二等道路百三十六里、三等道路九十里、等外道路百七十八里の改修を終へたるを記せり、又之に隣接して面事務所、倉庫組合、模範農場等の模型を配し、上部二面の事務狀況を示せる各種の統計を掲げ模型の下段には併合前に於ける郡面事務用の販木、印章、帳簿等を現時に於ける帳簿を併記して亂雜にして拾收すべからざる舊時の狀況と、秩序井然たる現況とを對比せり、而して大同江の風景の下には大同江の模型を横たへ、舟を浮べて之に本道の特産たる農産物、石炭等の標本、貨物等を積載し、米百六十二萬石、大豆二十二萬石、繭一萬石、石炭十五萬四千噸の年産額を語り、筏の模型によりて造林面積九千九百町歩に達せることを示せる外近く進水せる優美なる帆船浪號の實物模型を牡丹臺下の江上に浮べて其の風景に一層の光彩を添へたり、大同江模型の前面には甜菜糖、繭、大豆、小豆、粟、麥等産業上の標本を排列して改良前後の狀況を對比し左側鎭南浦風景の下には大型汽船二艘を浮べ、側に本道の輸移入五百三十萬圓、移出四百二十四萬圓なるを示し別に[illegible]燈臺の模型を置きて汽船さへ其[illegible]裝飾をなせり之に隣れる區劃に於ては普通學校、私立學校、書堂等の模型を揃へ、又棚の下には[illegible]品、[illegible]等を陳列して教育進歩の[illegible]乾鰒、乾鰕、米穀[illegible]等の成績品に依り[illegible]を語り、乙密樓[illegible]道特産物の一斑を示せり

以上の模型、成績品圖表等の語る所を綜合して併合當時と現今とに於ける本道の生産狀況を概觀するに農産に在りては米は十八萬八千石より四十八萬一千石に、大豆は三十二萬五千石より三十九萬一千石に、麥は十一萬四千石より十四萬石に進み、養蠶に在りては桑園反別四百町歩、收繭高二千石に滿たざりしもの八百町歩八千石に激增し、鑛産は百三十萬圓より百六十九萬圓に、水産は二十一萬圓より三十四萬圓に、工産は五十九萬圓より三百十四萬圓に、農産は千五十五萬圓より千六百十五萬圓に、畜産は百六十八萬圓より二百九十九萬圓に、林産は百二十萬圓より二百七十八萬圓に増加し生産總額に於て千五百五十萬圓なりしもの實に二千六百十二萬圓を算するに至れり

閑餘隨錄

大谷光瑞

三、香(承前)

印度に於ける諸種の香料中[illegible](chandana)を最も貴ぶが如く[illegible]を以て香料の代表となせり此の樹は印度半島の南部丘陵地に多く産出し、マイソル王國最も名あり、三千尺に及べり、この[illegible]るならんか[illegible]せざるが如し、コロマンデル海岸も産出せざるに非らずと雖もマラバル海岸の方には[illegible]ばマイソル王國領は一般に二千尺前後の高原にして西方に西ガート山脈の前後の高原をなし雨を隔つるを以て雨量も甚だしからずこの樹の産出に適せり、今マイソル王國はこの樹の專賣をなし樹林中より之を伐採するを禁じ官業となせり、樹幹二十尺より三十尺に達するもの之を伐る普通とす、此を伐れば多く空洞を心に生じ價格を損すと云ふ、通常は二十五尺とす、樹齡亦二三十年の間にあり、樹皮の外[illegible]根皆香あり、品質に從ひ之を別ちて[illegible]法により世上に公賣せり、南洋諸島に産せざるに非らざるも品質印度産に遠く及ばず、通常白色をなすと雖も其色漸く濃なるに從ひ香氣更に高しとせり、故に赤、黑、黄等の稱從て起れり、英語にてレッドサンダルウッドと稱するは全く別物にして樹名をプテロカルパスサンタリヌスと稱し其材赤色をなすと雖も香氣を有せず混ず可らず、旃檀は我邦に傳らざるに非ずと雖も沈香の如く古より羨望せられず、蓋し沈香は之を燃燒して香氣始て著しく燃燒せざれば香氣無きに非らざるも著しからず、旃檀は之を燃燒せざるも香氣遠く及ぶ、ボンベイに於て小箱を作りて之を販賣せり其香頗る高く文房具の如きは机上に置くときは頗る心神を快適ならしむ或は衣箱に用ゆるものあり皆芳香を放散せり之より抽出せる旃檀香油は香料の外藥用に供せらる、以上は最も有名なる五種の香料なれどもその他印度に於ける香料類は多く決して五種のみに限れるに非ず、金光明最勝王經は三十二味の香藥を以て身體を洗浴すべきを說けり、即ち菖蒲、牛黄、苜蓿香、麝香、雄黄、合昏樹、白及、芎藭、枸杞根、松脂、桂皮、香附子、沈香、栴檀、零凌香、丁子、鬱金、婆律膏、葦香、竹黄、細豆蔲、甘松、藿香、茅根香、叱脂、艾納、安息香、芥子、馬芹、龍花鬚、白膠、青木此なり此中居士になきを以て適譯を得ざるものあり又今日考へ難きものあり幸に義淨三藏(同經の翻譯者)は悉く梵名を附記せり故に搜索に便なれども猶ほ知り難きもの少からず今一々品種を考證するに繁に失するを以て之を省く(未完)

『九月十日旅順に於て』

新製品 大賣出

大共進會記念として發賣したる兩切煙草一圓票は一般の人氣沸が如し

兩切捲煙草二十本入

金貳錢

◎一本の煙草に勞苦を忘れよ。

◎一本の煙草より大理想を發見す。

◎一本の價値に一厘也

廣江商會

新版 朝鮮より

宮原網村先生著　丸野竹南先生畫

著者在朝既に七年○常に朝鮮の山川風物を歌ひて中央の文壇に新趣味を紹介せらる。今や會心の作數編數百首を擧せて本書となる。看よ。禿げたる山。涸れたる川。あめうりの鋏の音も。チョンガーの花賣る聲も。城壁も廢屋も。何れか美化して心地よき歌とならざる。加ふるに。淸楚輕快なる文章と、瀟洒奇拔なる挿畫とは、兩々相俟ち、朝鮮の氣分を發揮して餘りあるもの。これを座下に繙かば、居ながらにして半島を旅行し。これを母國に贈らば、朝鮮を紹介する最好の紀念品たらん

寸珍洋裝頗美　定價五拾五錢　送料四錢

專賣出來

今村鞆氏著

朝鮮風俗集

菊版總布上製 天金四六頗美　定價金壹圓八拾錢　送料 十八錢 內地四十錢

朝鮮人の國民性は如何‼心理狀態如何‼倫理道德觀は如何‼宗教心は如何‼社會生活如何‼本書は此等の諸問題を風俗習慣の側面より解說せしものにて朝鮮人情風俗史、心情の解剖史とも云ふべく唯一の參考書たり朝鮮の風俗に通ぜざれば朝鮮を知らんとするも得べからず朝鮮を語らんとする人本書を措きて亦何にか求めん

發兌 京城本町二丁目 電話二三八四 斯道舘

賣捌 京城 大阪屋號書店 電話二〇八六番 振替二五七三番

清酒

罐詰類 乾物類 雜穀類 海產物類 漆器類 家具類

鰹節

什器 箱火鉢 膳椀類 細[illegible] 宗[illegible] 東京澤庵

昆布

金物類 ストーブ ショベル 履物類 荒物類 文具類

農具

紙類 花筵 煙草 木炭 石油 石炭

國旗提灯

仁川新町 津田兄弟屋 電話七六二番 振替京城三八九番

青島四方町十四號地 津田兄弟屋出張店

列強大戰

▲露國參加 巴爾幹の防禦協同作戰の協定

巴里來電に曰く、首相ヴキヴキアニ氏は露國の巴爾幹防禦參加は遠からず實現さる可く尙ほ英佛露三國は協同作戰の方法を協定したり此の方面に使用し得らるゝ聯合軍の兵力は充分なる旨發表せり（紐育電報）

▲羅國豫約 協商國と協力

羅馬來報に曰く、羅馬尼首相ブラチアノ氏は羅國が獨墺に對して戟を執るは其時を擇ぶの要あれど結局協商國と協力す可きを伊太利に約せり（紐育電報）

▲退去を命ず

倫敦來電に曰く、英國政府は倫敦駐在勃牙利公使に退去を命じたり（紐育電報）

▲陰謀暴露 希臘領土割讓

獨逸が勃牙利と秘密條約を締結し希臘の領土を勃牙利に割讓せんことを約せる陰謀暴露せられたる爲め希臘人の激昂非常なり獨逸公使は大恐慌を起し切りに事實を非認し居れり（倫敦電報）

▲露軍勝に乘ず

露都公報に曰く露軍はドウインスクの西北及び西南に於て獨軍を攻擊し遂に之を村落及び塹壕より驅逐し追擊の後其の陣地を占領せりコウエルサルテ鐵道の兩側に於て激戰行はれ露軍の砲火は益々激烈となりつゝあり露軍はスチル河の左岸コルキ下流方面にある敵の第三塹壕全部を奪ひデラジノの西方に於て敵は八回に亙りて逆襲を試みたるも悉く之れを擊退せり（倫敦電報）

▲ス河戰線突破

露都來報に曰く露軍はストリ河に於ける獨軍の戰線を突破し捕虜二千名を獲たり（紐育電報）

▲サロニカ軍勢

雅典來電デーリー、ニュース紙に達したる報道に依れば聯合軍は最初の計畫を變更し軍隊は今猶ほサロニカに上陸しつゝあり內地に進軍しつゝあるは聯合軍の少部隊にして一方サロニカにては多數の軍勢を集中しつゝあり（倫敦電報）

▲虐殺再び熾ん

國務省に達したる報道に據れば回々敎徒のアルメニア人虐殺は勃牙利が戰鬪に參加して以來再び熾んに行はるゝに至れり（華盛頓電報）

▲獨逸汽船坐礁

コッペンヘーゲン來電に曰く英國潜航艇と信ぜらるゝ一潜航艇は十一日ビランド沖に於て一獨逸石炭船を擊沈し鐵材を積載せる一獨逸汽船を砲擊し遂に坐礁せしめたるが右兩船乘組員は救助せられたり（倫敦電報）

◎奉祝會へ行幸

東京市に於ける大禮奉祝會は來る十二月九日と決定したるに付き天皇陛下には當日上野公園なる式場に行幸遊ばさるべく御內定相成りたる旨拜承す（東京特電）

◎旅費日當下賜

朝鮮、樺太、臺灣、關東より御大典に參列すべき官吏に非ざるものゝ旅費日當御下賜さるべしと漏れ承はる（東京特電）

◎勅題御發表

大正五年御歌初め勅題左の如く十三日發表ありたり（東京特電）

「寄國祝」

◎帝政請願決議 奉天商民大會

十二日國體變更に關する民意徵集の爲め開會したる商民大會は五十一縣の代表者參列滿場一致にて帝政採用請願に決し即時聯名委員は草案を段上將軍に示し直に北京政府に電報するに決し起草打電せり（奉天特電）

◎外相親任式

駐佛大使石井菊次郞男十三日歸京に付き大隈兼攝外相に對し同日附左の如く兼攝外相罷免の辭令ありたり

內閣總理大臣兼外務大臣 伯爵 大隈重信
免兼官

次で午後二時宮中御座所に於て大隈首相、鷹司侍從長參列左の通り外務大臣の親任式を行はれたり（東京特電）

特命全權大使 從三位勳一等男爵 石井菊次郞
任外務大臣

◎陸軍佐官異動

十三日陸軍に左の異動あり（東京特電）

歩兵中佐 永野幾麿
免露國駐在補參謀本部々員

若松聯隊區司令官歩兵中佐 鳳田彥助
免本職補參謀本部附

歩兵第六十五聯隊附歩兵中佐 稻垣清
免本職補若松聯隊區司令官

◎特別會計豫算 植民地豫算と閣議

朝鮮、臺灣、樺太、各植民地特別會計に屬する明年度豫算案は既に全部出揃ひ大藏省にて調査中なるが十四日の閣議に提出せらるべし（東京特電）

◎英國公使聲明

北京英國公使館にては支那が今回國體を變ずるは曩きに民國たる例と其性質を異にすれば各國が今回の承認は重大ならずと稱し居れり（東京特電）

◎農相釜山著發

河野農相一行十三日午後七時著釜八時半連絡船へ搭乘歸東の途に就けり（釜山特電）

◎ス博士出發 渡鮮

滯京中なりし米國スターヂ博士は十三日午前八時三十分東京驛發汽車にて朝鮮各地視察の途に登れり（東京特電）

雜報

◎寺內總督訓示 農銀支配人會議

農工銀行支配人會議は十二日を以て終了せり、同會議に對し總督の與へたる訓示左の如し

一、朝鮮の物産を蒐集し各種事業の實狀を展示せんが爲め今回共進會を開催せしに殖産興業の發勵稍其功を奏し進歩の跡歷然たるもの各般の施設と相俟つて農工銀行に於ける産業資金の援助與つて力ありしを顧ひ茲に諸子の勞を多とす、然れども朝鮮經營の前途は尙ほ遼遠にして地方經濟の發展に關し將來諸子の努力に待つもの甚だ多し諸子は克く監督官廳の指揮に從ひ一層職務に盡瘁せられむことを望む

二、本年貿易の狀態は輸移出の增進と輸移入の減退とに依り稍順潮となりしも永く此趨勢を繼續するや否や疑なき能はず、將來貿易の均衡を保つが爲めには益々國富の增進に力め産業の開發を圖り、輸移出貿易の獎勵に待たざる可からず、銀行理事者は之が獎勵上輸移出資金の供給に關し十分の奮勵努力あらむことを望む

三、貯蓄の獎勵に關しては屢々訓示する所あり、郵便貯金及び銀行預金の漸次增進するは大に喜ぶ可き現象なりと雖も尙ほ未だ充分なりと認むること能はず、諸子は地方官憲と協力し一面勤儉貯蓄の美風を涵養すると共に廣く貯金の方法を示し銀行資金の充實に力む可し

四、農工銀行の本然業務たる農工資金の需用は漸く增加するに至りしと雖も未だ以て充分なりと謂ふ可からず、地方有力の農民中には未だ農工銀行に於て長期低利の資金を供給することを知らざるものあり、諸子は宜しく其の使命の存する所に顧み自ら進で業務を一般に周知せしむることに力むると共に農工資金時に年賦償還貸付金の供給に一層努力す可し

五、農工銀行業務の狀況を見るに近來著しく改善せられたるを認む、然れども二三銀行に於ける滯貸整理は最も困難にして之が善後處分に關しては當局に於て企劃する所ありと雖も諸子は一層行務の改善を圖り營業狀態の健實を期すると共に滯貸出金の回收に努力す可し

六、地方金融組合委託業務は其取扱開始以來相當歲月を經たるに拘らず其成績の見る可きものなきは甚だ遺憾とする處なり、是れ素より借主の信用狀態等の調査不完全に歸するもの なる可しと雖も而も地方金融組合理事と銀行當事者との意志疏通せざるに基因する場合少からざる可し、將來力めて之れと密接の連絡を保ち小農工資金の散布に力を盡し地方金融の疏通を幇助す可し

七、近時金融機關の職員間に往々背任其他の不祥事の發生を見しは遺憾に堪へざる處なり、凡そ信用を基礎とする銀行に在りては一人の非行は其銀行の信用を害し延て累を財界に及ぼすものなり諸子は宜しく誠實事に當ると共に部下を監督指導し內は行務中の正確を期し外は信用の增進に力め以て行運の隆盛を企圖す可し

◎隊署長會議

京畿道警務部に於て十三日午前八時半より管內の隊署長會議を開會せるが分隊長七人分遣所長十人警察署長十二人及び警務部警視及び高級下士警部も參列し會議事項は第五日の日程を第一日に變更して事務の打合を爲したり

◎金融大會盛宴

朝鮮金融業者大會は十三日午後七時より朝鮮ホテルに於て朝鮮以外銀行代表者の來會せる人々を招待し盛大なる晚餐會を催せり當夜併せて招待せられたるは山縣政務總監各部長官立花警務總長小宮次官吉原東拓總裁原田朝鮮社長其他官民の有力者にして主客併せて百三十名淸楚閑雅に裝飾されたる大食堂を開き宴酣にして水越委員長は來賓に對し挨拶し之に對し松方十五銀行頭取の謝辭ありて宴を終へ別室に於て餘興として妓生の舞踊數番あり主客充分に歡を盡し十時散會せり

◎商議朝鮮聯合會

第十四次朝鮮商業會議所聯合會は十三日午後二時より日本人商業會議所に於て開會出席者は總督府の靑木商工課長及び仁川、木浦、釜山、元山、大邱、淸津等の正副會頭又は書記長常議員等十二名にして定刻に至り原田會頭は會長席に就き先づ會頭就任の挨拶を述べ併せて今回聯合會の會長として當席を汚すに至りたるは最も光榮とする處なりとて開會を宣し副會長の選擧に移り會長の指名にて仁川の奧田貞次郞氏を副會長とし議案の整理を行ふこととなり其委員として出席の各商業會議所書記及び京城會議所の關副會頭、大村書記長の七氏を指名囑託し約十五分間の後本會を閉じ別室に於て提出議案十四件に對し協議を遂げたり十四日は午前十時より同所に於て會議を開き前日委員によりて詮衡されたる議案を議題として開議し正午休憩午餐の後午後一時より再び會議に移る豫定なりと

◎家畜家禽出揃 畜産館賑ふ

共進會場內畜産館は十一日を以て全部出揃ひとなれり、家畜、家禽の種目並に其梗槪左の如し

▲牛 乳用牛四頭の內三頭はホルスタイン、一頭はエーアシャー種なり其他二十六頭は朝鮮種にして各道の優良牝牡牛なり

▲豚 は二十頭とも全部バアークシャー種若くは其雜種にして各道の産なり

▲山羊 全部五頭にして在來種四頭ザーネン種一頭とす

▲鷄 白色レグホン十三羽、橫斑プリマスロック二十一羽、名古屋コーチン五羽、白色プリマスロック八羽、カンヒン一羽、雜種二羽、在來朝鮮種八羽、此優鷄一羽

▲水禽 鵞鳥二羽、家鴨二羽

之等の中牛は朝鮮種の蕃殖を奬勵し近時其成績大に見る可きものあり、今回の出品は各道の粹を拔きたることゝて何れも偉大の體格を備へ性溫順にして目出度き優秀牛なり、又た豚は飼養容易にして體格優良なるバアークシャー種の雜種蕃殖を奬勵せるが今や滔々として各道に普及しつゝあり、鷄は卵用の目的を以て白色レグホン、肉用兼卵用の目的を以てプリマスロック、名古屋コーチン種の雜種蕃殖を奬勵し居れるが既に各地に普及し今や如何なる山間僻地と雖も其飼養を見ざるところなし

◎懇話會出席者 內地鮮滿四十地方の實業家を網羅す

全國商業會議所並に滿洲實業團體聯合懇話會は十五日午後二時より工業俱樂部所講堂に於て開會すべし其日程は會長の選擧、會長の挨拶、總督の祝辭、來賓の祝辭演說等順次あり、たる後豐永博士、宮木關稅課長等の朝鮮商工業に關する講演あり六時半よりは朝鮮ホテルに於て晚餐會を催すべし十六日は午前共進會觀覽午後秘苑を拜觀すべしと十三日迄に出席申込を爲したる者左の如し

▲東京 杉原榮三郞、角倉賀道▲大阪 今西林三郞、井上寶英▲京都 濱岡光哲、西池成義▲名古屋 鈴木摠兵衞、佐藤太助、松田秀吉▲神戶 瀧譯哲三郞、官吉三郞、林仲顯岡部三四▲金澤 村尾覺三郞▲仙臺 八木兵衞柴田千賀藏、小原辰三郞▲八王寺 齊藤政吉田沼久吉▲山形 草刈源助▲下關 林米吉、渡部喜太郞▲久留米 瀨竹嘉市、國武克己▲鹿兒島 中馬庄太郞▲高岡 梶村字平、淺野小兵衞、須藤文吉▲高崎 淸水新一郞▲高知一柳富之助▲福井 松井文太郞、渡邊嘉左衞門▲岡崎 千賀千太郞▲松本 今井五介、中村彌平、森貞文▲高松 中村新太郞▲長崎永見寬二 廣瀨宗一郞、脇山啓次郞▲長岡渡邊勝吉▲橫濱 渡邊文七、綿野吉三▲富山金井久兵衞、高桑直介▲川越 高山俊吾▲安東 久間彈助、笠井仁三郞▲遂寧 玉井信之輔▲鐵嶺 細太親吉▲營口 鈴木陸吉▲仁川奧田貞次郞、和田友太郞▲木浦 木村健文、中田孝之介▲釜山 山本純一、花輪熊五郞▲元山 本岡卯之吉、石井彥三▲鎭南浦 西崎鶴太郞、松岡公道▲大邱 岩瀨靜、渡邊比▲淸津 青木畝郞

◎李堈公共進會觀覽

李堈公殿下には武官事務官其他陪員を隨へられ十三日正午御微行にて共進會に御成あり一號館、東拓館、鐵道館、審勢館、二號館、營林廠特設館、器械館、美術館、美術參考館、赤十字愛國婦人館を順次御覽の上貴賓室にて御少憩、四時十五分御歸邸あらせられたり

◎小松原會長日程

十五日以降に於ける小松原東洋協會長の鮮內視察日程左の如し

▲十五日午前八時三十分南大門驛發午後五時三分群山著▲十六日 農業、水産學校、普通學校視察の上午前十一時四十五分發裡里に赴き同地より自働車にて東山農場を視察し更に全州に赴く▲十七日 全州滯在、道廳、郡廳、農學校、慈惠醫院、慶尙役所産場其他視察▲十八日自働車にて全州發、金堤にて農場、面事務所視察の上午後四時四十八分發木浦に赴く▲十九日 木浦滯在、府廳、小學校、勸業模範場支場、操綿工場其他視察▲二十日午前六時發、八時十二分榮山浦着、羅州まで人力車、途中東拓農場視察し午後二時二十分羅州より汽車にて大田を經大邱へ▲二十一日午前二時四十分大邱著午前中同地を視察し午後零時二十分大邱發釜山に向ふ

◎三井男一行退京

滯京中なりし三井男爵一行は十三日朝南大門驛發汽車にて歸東の途に就けり、同驛には官民有志多數見送れり

◎木內重四郞氏入京

前總督府農商工部長官にして現貴族院議員たる木內重四郞氏は十四日午前六時五十分南大門驛著滿鮮急行列車にて入京朝鮮ホテルに投宿す可し

◎商議大會員招待

京城協贊會にては十六日正午慶會樓に於て目下開會中なる商業會議所大會に出席中の各代表者八十餘名を招待し午餐會を催すべしと

◎隊署長共進會觀覽

京畿道管內の各警察署長憲兵隊三十餘名は十三日正午共進會を觀覽し協贊會よりは茶菓の饗應をなしたり

◎協贊會理事會

京城協贊會にては十三日午後二時より定例理事會を開き常務に就き打合を爲したり

◎朝鮮彙報

十月號は共進會記事を筆頭として中井博士の朝鮮五葉松の直幹が末梢に至り二叉乃至四叉する理由、小原忠南道長官の管內二三篤行者の事績槪要、金澤博士の朝鮮語と滿洲語蒙古語との關係、勝山技師の華府に於ける國立印刷局の槪況、齋藤營林廠長の靑島の殖林事業等あり、其他行政、財政及び金融、産業、交通及び土木、學事、司法及び警察、研究資料、海外事情等の各項何れも頗る賑かにして三誦に値する文字尠なからず、紙數二百四十餘頁に亘り號を重ぬる每に體裁內容とも益隆頓し來れるは喜ぶ可し

◎栃木縣觀覽團來期

栃木縣主催の共進會觀覽團は縣官、實業家、敎育家等五十餘名にして十五日宇都宮發十九日夜南大門著の豫定

■ハルビンの一夜 ―代議士團と共に―

十月九日朝　東孤竹

無佛先生机下

蠟燭の光の細燈よりも心細く東淸鐵道の車中に露語も分らず、支那語も解せず心細き旅路をつゞけて黃昏の裡に浮動する第二松花江畔に出でたる時はじめて長橋上の觀察の雄麗なるに人心地いたし候

誰れやらん大河の中に火かざして
いざりするらし舟うかぶみゆ

は實景に候、その紅燈の美しかりしよ昨午後十一時哈爾賓驛にお降り立ちて當年の伊藤公を偲びつゝ悵然として人込みの中に佇み候。

いさましき公が最後の跡とひて
むかしを今に涙くまろゝ

星寒く空に凍りて靑くまたゝくみ、感慨更に深し東洋館といふに投じてパレルモといふにダンスを見候にわが支那視察の代議士團もその中にありたりと思召されたく候、而して奏樂のそゝろが如く起る時、花をあざむくうたひ女や踊り女の現るゝ每に恍惚として覺えずウオツカーの盃を重ね給ひたりと思召されたく候、而して又御念の入りたる一束の花環を贈りて日本紳士の嘴玉を示されたる一人ありと思召されたく候、されど一行の秘密はパレルモならず、すべて佛蘭西人の第五番館に遣されありとの事に候。猛烈なるダンスは夜明けならではとの事に一行は午前二時半に引揚げ候小生のみは宿無しとなりて街頭にさまよひ、旅の哀れのいとゞ身に泌み申候右御內報まで　敬具。

外金剛作　毛里生

金剛之山眞壯哉。踏雲百里度崔嵬。千峰皆石列天半。瀑白層巖直下來。

人事消息

▲石川彥三氏（元山商業會議所書記長）十二日入京不知火旅館へ
▲都倉義一氏（實業之日本社主筆）同上
▲中田幸介氏（木浦商業會議所書記長）十二日入京山本旅館へ
▲花輪熊次郞氏（釜山商業會議所書記長）同荒井旅館へ
▲山田又三郞氏（長崎十八銀行監査役）十二日入京城ホテルへ
▲阿合得二氏（技師）同天眞樓へ
▲長濱敬人氏（大連銀行專務取締役）同上
▲平山勘次氏（大邱覆審法院判事）同上山本旅館へ
▲喜頭兵一氏（同判事）同上
▲赤井定藏氏（大邱覆審法院檢事）同上
▲鈴木林次氏（光州地方法院判事）同不知火旅館へ
▲サッスコット氏（英國商人）同朝鮮ホテルへ
▲ヤング氏（同）同上
▲中村新太郞氏（高松商業會議所會頭）同上
▲田所次助氏（全州支廳判事）十二日發歸任
▲森川正住氏（晉州支廳判事）十二日入京不知火旅館へ
▲蓮川恒松氏（松禾支廳判事）同上
▲岡崎隆氏（瑞興支廳判事）十二日入京不知火旅館へ

大阪株式特電

十三日後場

大阪商船 八四、〇〇
日本郵船 一〇一、七〇
大阪米穀 一三二、六〇
東京新株 一三七、〇〇

大阪期米特電

	寄付	止め
十二月限	一二〇、六〇	一二〇、五〇
一月限	一二一、〇〇	一二一、五〇
二月限	一二三、三〇	一二三、三〇

仁川米豆取引所

十二月限	一二一、一〇	一二一、三一
一月限	一二一、〇〇	一二一、三九
二月限	一二一、九八	一二一、三七
	一二一、〇五	一二一、三五

▲後場の商戰

三千四百石賣二千八百石買今三千三百石賣二百石賣二百石買へ二千石買千百石買千五百石賣千七百石買三四百石買七千二百石賣三千六百石賣二百石賣二千[illegible]賣全四百石賣千石賣[illegible]千四百石賣千石買[illegible]

たるげたか市場は人氣稍穩搖し來りたる者の如くに見える

▲今筋續て賣る

昨後場より稍目立ちて賣り[illegible]後場も自店他店より賣り[illegible]

十錢の生れ直に頤合せしたり大阪は生れ直より尙四十九錢上値にあるに[illegible]の關係[illegible]成行[illegible]示し居れるより賣止の[illegible]が今や頓に擴大し居るから今[illegible]しとも限らず

後場 寄附 八圓五十五錢
高直 八圓五十二錢
安直 八圓五十五錢
場 八圓五十錢

十月限 千九百石
十一月限 一萬八千九百石
十二月限 一萬五千八百石

山葉 ピアノ 御大典記念品

◎日本樂器製造株式會社製◎

山葉 オルガン

◎今回の御大典に際し奉祝表意の紀念品に就きては各自細心に留意するところなり
◎樂器は國民享樂の源泉、家庭趣味の中心。優美と高尙と純潔とは雅正とに於て眞に紹大の記念品
◎弊店は斯の千載一遇の御盛典に際し左記空前の便法によりて精良の樂器を提供し以て報効の微衷を全うせんことを期す

應需規定
一記念樂器の注文は十月一日より十一月十日迄
一注文品の發送は十一月十五日より注文順序に從ひ十一月十五日迄に完送す
一記念樂器はオルガン拾號（六拾八圓）以上各號ピアノは各號（二百圓以上各種）
一記念樂器は純良なるを精選し之に高崇にして善美なる記念金牌を嵌填す
一記念樂器は內外遠近を不問今上陛下の統治し給ふ總ての地域へ唯一無二の定價を以て御注文に應ず
（運賃荷造費無料）

大阪市北久寶寺町心齋橋通角
三木樂器店
電話東八〇六番・八〇七番 振替口座大阪七九番

御大典祝賀用
◎少年樂隊器（八人組）壹組金參拾圓
◎青年樂隊器（五人組）壹組金百參拾圓以上
十月中御注文品に限樂隊太鼓に御大典記念のマークを美麗に金蒔繪を施す

特約店 京城本町 織居本店樂器部

商人仕入機關 貿易買次
ケーケー商社
大阪市北濱五丁目
電話本局三八六番 振替口座大阪六二九八番

外交時報社編纂
第四 國際關係地圖 定價金七拾錢 郵稅四錢

最新刊 本地圖は現下世界の國際問題の焦點たる地域十八葉を主題として蒐集編纂したるものなれば、苟くも海外の狀勢を知り且つ向後の國際政局の推移を知悉するに必須不可缺絶好の參考書なり。附錄として各地圖每に一々正確詳細なる狀勢說明書廿二頁を附す

內容目次
1 戰後南太平洋列國勢圖豫想圖
2 クサイエ島狀勢圖
3 ヤツプ島部族並狀勢圖
4 サモア群島圖
5 塊匃國分割の一豫想圖
6 戰前塊匃の提供と伊の要求圖
7 クアドリアチックに於ける伊と塞
8 チエック族の國
9 巴爾幹諸國の爭論圖
10 巴爾幹爭論別圖
11 マセドニヤに對する勃牙利の主張
12 マセドニヤに對する塞爾比の主張
13 塞國に於ける羅馬尼人分布圖
14 塊匃國內の羅馬尼人分布圖
15 露國に於ける獨逸人の土地所有圖
16 分割と統一の波蘭圖
17 阿弗利加現勢圖
18 東蒙古物産分布圖

再版 第三國際關係地圖 外交時報社編纂
既刊 第三國際關係地圖 再版出來 定價金八拾錢 郵稅四錢
發兌 東京麴町下二番町六八番地 外交時報社出版部 振替口座東京六〇二〇番

賣却土地廣告

第一號 濟州郡南一面外所在 畓、田 千三百六十二斗落
第二號 濟州郡北面所在 畓、田 六百七十九斗落
右 入札期日 十月二十三日午前十時 入札場所 京城 德壽宮
第三號 海南郡海南面外七面所在 畓 千四百八十五斗落
第四號 海南郡門內面外所在 畓 千四百八斗落
右 入札期日 十月二十三日午前十一時 入札場所 木浦府廳內李王職出張員
追テ詳細ハ德壽宮事務室又ハ木浦府廳ニ照會アリタシ
大正四年十月
元慶善宮遺産淸算委員

下關期米

十三日後場(正米安なるせ押目買)

九月限	一一七,〇〇	一一七,二〇
十月限	一一八,三〇	一一八,三〇
十一月限	一一九,五〇	一一九,五〇

▲生値に顏合す

十二日の十一月限

乃木大將の臍火鉢

家庭博第二日の久留島氏お伽講話

家庭博お伽講演第二日は十二日午後三時半後庭の廣場で開かれた聽衆は南大門、日の出、鍾路、櫻井、元町の五校生徒二千餘人、久留島先生の底力のある聲は隅から隅まで徹り一人も聽き洩すものなく京城未曾有の子供會であつた、先生のお噺は『乃木大將の臍火鉢』と云つて聞いて誠に面白い修身談でありました

【幼】い時弱蟲であつた乃木大將は嚴格なお父さんに薫育されてアノ樣に偉らい人となられた、乃木大將も亦自分の御子さんの勝希、保典と云ふ二人の教育は頗る嚴格にせられた大將は狹まくるしい六疊の間を自分の部屋とし、日射のよい隣りの八疊の間をお兒さん達の強勉室に當てられて晝も夜も御自分で監督して居られた

【大】將の家では冬中火鉢を使ふ事がない、女中と馬丁の部屋には火鉢を許されて居たが大將の部屋は無論の事夫人の部屋にもお兒さん方の强勉室にも一切火鉢を入れない、冬の寒い冷めたい日には勝典保典の御兄弟は隨分とお困りになつたものだ、大將は自分達は火氣をお取りにならぬが客人のあつた時には火鉢を出される、客人が歸られた後で女中が補所風をして大將に知れぬ樣一寸の間お兒さん達に手を焙ぶらせる事が稀れにはあつた

【極】く寒い冬の或る日の事、兄さんの勝典さんは讀方、弟の保典さんは綴方の勉强をして居られたが、朧くとして屋外に吹く寒風は障子の隙間から入つて來て硯の水も凍つて終まうと云ふ冷たさ、兄弟二人はガタ〳〵と震へて居た、隣で此樣子を見て居られた大將は唐突に『勝典！保典！』とお呼びになつた、二人は叱られるのだと思つて悸々もので靜に大將のお部屋に入つて兩手をついたが大將は存外に御機嫌がよい

【所】謂『寒いだらう！』と御聲掛せられて『寒いだらう！』と御仰せになる兄弟は寒いと云つたら叱られると思つて『イヤ寒くはありません』と威勢よくお答へをすると大將は『噓を云へ寒いのだらう、寒くないと云はんでよい、寒いのは寒いので之れに打ち勝つ心得が肝要なのだ、父も今日の寒さは餘程身に泌む樣だ、お前達も火鉢を出して焙つたら好からう』と御仰る

【當】時に似せない父の言葉に兄弟は珍らしい事だと怪々して什麽火鉢を出して下さるのだらうと思つて居ると『勝典、子供の時に貰つた火鉢はドーした』と云はれる勝典さん愈々解らない『火鉢なんて貰つた事がないのに妙な事を御仰るものだ』と兄弟で顏を見合せて居ると大將は『お前達が出さなければ俺が出して焙ぶらせて遣らう』と云いながら腕捲りをして部屋の眞中に毅然と立ち上り『二人共こゝへ來い』と兄弟は向い合ひに膝を突き合はして座はらせられた

【こ】こで座り相撲を取るのだ『保典！兄に遠慮するとは要らないから勢一杯に行れ』兄弟は宛然狐に魅まれた樣だ、火鉢の話が何時の間にやら相撲になつて終まつた、と思つたが仕方がない、元來活潑な兄弟は激しく相撲ふた、上になり下になり捻ぢつ捻ぢられつ、ドタンバタンと共れは〳〵大變な大相撲、行司役の大將は却々軍配をお上にならない

【兄】弟はモー火鉢の事を忘れ夢中になつて相撲つて居たが次第に息が切れて來る『兄さん羽織を脫ぐから鳥渡待つて下さい』と保典さんが羽織を脫げば兄さんも脫ぐ、遂には立ち相撲となり着物迄で脫ぐと云ふ勢ひ、乃木家では洋服の下には襯衣とズボンを著るが和服の時は冬の寒い日でも袷と縕絆丈であつたのだ、兄弟二人は縕絆の上に帶を締めて相撲ふて居たが兄さんの勝典さんの力や强かりけん弟さんは見事に投げ付けられた

【投】げられて䫌の角で頭を打つた保典さんは額から玉なす汗を手で拭ふて居る、大將は莞爾とせられて其れか頭の火鉢だとか仰る、勝典さんは胸から腹から一面に流れる汗を手で拂ふ樣にして拭いて居ると大將は『ドーダ勝典！お前にやつた臍火鉢が之れだ、温くなつたであらう、寒い時には時々二人で此火鉢を大きくしたり小さくしたり隨意に出して焙るがよからう』と御仰つて此日は終んだ

【そ】れから後、或る日の事、御親類の馬場機關中佐が訪問された、乃木家の取次役は常時夫人がせられる乃木家の家風を知つて居る中佐は直ぐ歸へる心算で、それには及びませぬと火鉢を斷つて置いた、それではと云つて大將と中佐とば火鉢なしで對談して居られた、種々と話が長くなつて直ぐ歸へるつもりのが三十分にもなつた、そう長くなると火鉢なしでは寒くて堪らない、併し一旦斷つた火鉢を今更出して呉れとは軍人として云へない

【辭】して歸らうと思つても大將の話は却々途切れないので心中頗る困つて居ると、隣の部屋で『少し寒いから臍火鉢を出さうか』と云ふ話聲が聞えたので馬場中佐は御兒さん達が氣を利かして臍の付いた火鉢でも出して呉れるのだと思つて内々喜んで居た所が火鉢は一向に出て來ないで隣の部屋でドタンバタンと大騷動が始まる、中佐は餘程大きな火鉢だと思つて居ると、エイと一聲の唸り聲が聞えた途端ドタンと許り人の倒れた音と同時に唐紙が倒れて赤裸の子供が飛び出した

【中】佐は心配で堪らない御兄弟が火鉢を運ぶ途中兩側に付いて居た臍が取れて火鉢を打ち開けたのであらうと思つて、大將に『灰が溢れはしませぬか』と問うた、大將は莞爾せられて『アレは火も灰も入つて居ない子供等の臍火鉢だから心配はない』と其由來を中佐に說かれた、之れを聞いた馬場中佐は誠に結構な御敎訓を伺ひました、私の子供等にも此構な臍火鉢を與へる事にしませうと篤く禮を述べて歸り、直ぐ玄關にお迎へに出た四郞さんと云ふお子さんに此臍火鉢をお遣りになつたと云ふお話を私は馬場さんから聞きました

【私】は又こゝにお集まりになつた小學生徒諸君に此臍火鉢をお上げするのである、此火鉢は臍には限りません、手の先きからでも足からでも出るのである、自分の持つて居る力を出して働けと云ふ事である、自分の持つて居る大和魂を出して働くのである

大共進會

一日三千

の旅客を泊る京城の宿屋 開闢以來の盛況 五百名の內地人

統計表に現はれた共進會の入場者が一箇月五十二萬七千六百五十二人であつたといふ、それを三十一日で割ると一日の平均が一萬六千百二十一人といふ事になる、南大門驛の調べによると日々同驛に降りる

▲旅客の數 が六千人から七千人あるといふして見ると共進會見物に這入つてくる內地並びに朝鮮地方の觀覽客が之れで此の外に鐵道によらず近在から入込んでくる者を假に三千人とすると共進會中の京城は日々九千乃至一萬の外來客を迎へてゐるわけである、その中から二割はその日に歸つてゆき、五割を知人の家に泊ると見て殘り三千人は

▲旅籠に就く 勘定になる、乃でその宿屋の數が京城に何軒あるかといふに內地人の普通營業者が三十九人臨時營業者が三十一人ある、普通旅宿營業者とは朝鮮ホテルから三流四流の宿屋に至るまで繼續營業をしてゐるもの、臨時營業者とは共進會を當込みに會期中營業をする宿屋である、朝鮮人の方が普通旅宿が三百九十三人臨時十七人都合京城丈で四百八十軒ある、四百八十軒が日々三千人の旅の者を吞吐してゐる事になる

▲一日一圓 平均にしても三千圓の金が落ちてゐるわけだ、內地人の旅籠には附物の茶代は全然別になつてゐるが勘定に入れたら馬鹿に出來ぬ額に上るだらう、內地人旅宿の宿泊料の規定を見ると二食共一泊が特等五圓廿錢一等三圓八十錢二等三圓十錢三等二圓卅錢四等一圓六十錢五等が一圓三十錢、六等が一圓になつてゐる、此の外團體に對しては協贊會との間に特約が出來てゐて一等二圓六十錢二等一圓九十錢三等一圓三十錢に割引してゐる、其處で九月十一日の開會から十月十一日までの一箇月間に內地人

▲旅館七十 軒に投宿した數を本町署で調べると約二萬人になつてる、それを三十日で割ると一日平均六百六十七人になる、その中には朝鮮人も外國人も團體も含んでゐるがといふ事は京城始まつて以來曾てない事なのである、七月の一日平均が百二十七人八月の一日平均が百四十二人であつたのに比べると實に五倍からになつてゐる

▲素敵な勢 であると謂はねばならぬ、その內でも最も多かつたのは閑院宮殿下御滯京中の一週間は赤愛總會、鐵道祝賀會等で地方人の入京が多かつたため素晴しく增して內鮮人大で五百人からの泊り客のある日が三日ばかり續いたのであつた、乃で朝鮮人の方を見ると確かな數は判らぬけれども一千五百人乃至二千人の所を上下してゐる事は明かである、要するに京城の宿屋は

▲實際の所 日々二千五百人の旅客を泊めてゐる譯である、殘りの五百は新舊龍山に流れて行くものと見える、何にしても古今未曾有の景氣であるといはねばならぬ

大當り〳〵＝(家庭博入場者景品引換所)

水族館に海龜

南洋の新領土より

十月十四日より仁川水族館に巨大な海龜が來るやうになつた、此度の海龜は南洋の新領土より來たのであるが右の海龜は今回スタンダード石油を滿載した帆船が南洋の一島に廻航の時同船乗組水夫が海中に飛び込み生捕したるもので釜山へ二三日前入港したのであるが京城スタンダード會社員下野市三郞氏が出張の際測らず此の事を知つて買取つて來たので同氏より水族館への寄附である、南洋新來の珍客は海獸池の海鱸と同棲するやうになつたのだから益々觀客を嬉ばせる事であるが新領土よりの珍客は慥かに大呼物となるであらう

家庭博覽會

昨夜も大當り 家庭博の落語＝圓坊と若橋の勉强

十三日の夜は福引的大景品が出たので夕景からの人出は又格別午後七時からは後庭の舞臺で浪花節出演中の語落家若橋と圓坊が來て二人は互に負けず劣らず落語を話しては觀客の頤を解き座敷踊りに盆婆さ蒲團廻し等は大喝采、非常な人氣であつた

大人氣の家庭博景品

等外には蓄音器、味噌一樽、炭一俵と云ふ奇拔な景品あり

家庭博の福引的大景品の提供は一本も空籤なく而も當選者は間違のない現金を受取るのだから素

別項景品寄贈者にある如く蓄音器とか味噌十樽とか白炭十五俵とか麥酒一函とか奇拔な景品が澤山出る

▲十三日午後二時より八時迄の當選者

△一等 本町戎屋方 檜崎雄士
△二等 岡崎町大二商會 張ふじ
△三等 漢江通り 村田庄太郎
△三等 長谷川町 足立つた
△四等 仁川 奥田貞二郎
△四等 晋州 信演國

松齡會謠曲大會

觀世流松齡會にては來る十七日午前十時より南山町花月に於て秋季謠曲大會を催し同會員多數の出演ある由當日の番組左の如し

▲素謠 高砂、夜討曾我、松風、俊寬、紅葉狩
▲袴能 小袖曾我、雨月
▲舞囃子 忠度
▲仕舞 田村、大江山、杜若、東北、蟬丸、桜川、合甫、小鍛冶

大好評連日滿員!! 十九日迄引續き毎夕六時開場

サロメ劇 大魔術 天勝 一座

▲サロメ劇は十四日限り見遁す勿れ

共進會場內 京城協贊會 演藝館

晴らしい人氣を呼んで十三日の午後から夜に掛けての入場者は頗る多く抽籤場から景品引換所は甚夜を通じて大賑ひ、今十四日は一等より四等までの景品の外に等外には

入場者には必ず當る抽籤＝(景品二萬餘點)

家庭博の大景品 (十三日より晝夜一週間)

番外飛入奇想天外の大景品が毎日續々と現はる

家庭博覽會大景品寄贈者

▲味噌(五貫目入)十樽 遠藤商店
▲白炭 十五俵 川西商店
▲十圓票 二千包 廣江商會
▲麥酒一箱タオル廿筋 日本麥酒會社
▲清心保命丹(十錢入)二百袋 濟生堂
▲蓄音器 一個 大正足袋
▲雜誌類 百冊 大坂屋
▲ミルクキヤラメル 百個 中島支店
▲クラブ化粧品 三百個 中山太陽堂
▲味の素 三百個 鈴木商店
▲レート白粉 三千個 平尾商店
▲プロペラー 二千個 朝鮮煙草會社
▲朝鮮地圖 五十部 ▲水筆 五十本
▲專賣特許インキ壺一打 ▲紙挾 九十個
ホツク付懷中手帳三打・町田文太郎

本椿香油

曩きに各宮妃殿下及宮內省御內儀御用之光榮を拜せり
●九條公爵家始其他華族貴顯方御常用の榮を蒙れり
各博覽會にて金銀牌受領
●注意 二婦人共頭上柿なきは僞物
定價 卅錢、卅錢、六十錢、一圓
髮を黑く長くつやを出しさらく
として髮のぬけを防ぎ髮あかつかざる事妙なり
本舖 大阪 三宅

京日案內

●普通 (一回前金三十錢 一行五錢)

●女中に被雇度し 齡廿二歲官吏にて家庭家族の少なき家を好む △京城 電話三八二番へ 746

●古本 ▲雜誌(新聞)買入 ▲反古(書籍) ●電話振武武參 京城本町ウツボヤ書籍店 747

●看護婦入用 希望の方は履歷書を添へ募集す 仁川寺町 仁川看護會 743

●紳士招聘 齡廿五歲以上の內地人希望者履歷書携帶來談 本町二ノ壹〇六 大正生命保險會社京城 742

●有給外交員數名採用希望者履歷書携帶來談 壹武武番地 京城花園町 帝國圖書普及會支部 745

●入齒 此際に限り特別大割引 京城本町三丁目八四 商業銀行支店前入 永井 695

●滋養大 乃木餅 ●中飯 ●煙草 御茶菓子代用 本町壽舘前電二七五二番 ●乃木餅屋 693

●店員入用 齡十七八歲以上廿歲迄の者二名採用す至急來談あれ 南大門通一丁目(黃金町角)西村商會 725

●奥樣令孃に急告 ちゞれ毛のなほること奇妙はやくおためしあれ 京城明治町三ノ二九番 山崎まさ 726

●女店員 數名募集す十二歲より卅歲迄保證人要給料面談(委細前) 京城本町二電二七五二番 △乃木餅屋 728

●番外 (一回前金六十錢)

●移轉御披露 新築家へ移轉從來の通り營業罷在候 京城黃金町三丁目 水標橋入る角 星谷商店 740

▲牛肉卸小賣 京城南大門通四丁目青物市場前 電話二九一一番 高橋牛肉店 741

●日本製六〇六號 『アルサミノール』注射開始 京城明治町一丁目(元惺町) △皮黴科 佐藤醫院 744

旅館 一泊八十錢一圓一圓廿錢 御中食三十錢四十錢各別 共進會觀覽各位に多大の御便計り 入口五六軒右脇 △伊藤旅舘 ●共進會 720

●生産販賣並に優良春蠶種照會 滋賀縣長濱大手通 春蠶種 中國商會 電話三〇〇番 振替大阪二九二七五 704

●ほねつぎ うちみ くじき等 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 685

恩給年金類立替 京城永樂町一丁目四十四番地 商品陳列舘前 電話八〇三番 江州屋 709

皮膚病 花柳病專門 永樂町商品陳列所坂の上 須古醫院 電話二一〇三番 566

恩給年金類立替 京城若草町一丁目一〇六 井出邸內 電話二二六三番 西村商會 712

●貸家 場所南大門通一丁目 商業向に好適本通り煉瓦建にして水道瓦斯の設備あり御望の方は左記へ御問合を乞ふ 南大門通一丁目電話一三四七 德興號 723

●旅館開業御披露 閑靜にて眺望佳絕 京城南大門脇 漢陽公園通り 電話二二九 營業主 大原松次郎 漢陽旅舘 626

募集 本業は美術ゴム細工前途有望自宅で出來る好職業 自轉車各タイヤ修繕機景品付大阪詳細來店又は有劵十錢送れ 京城黃金町日之出商會 電話二六五二 645

大腸疾患特効新劑

本邦特種の植物より醫師若林氏多年苦心の結果抽出し得たる新藥にして治痢・解熱・鎮痛・殺菌の効適確にして而も何等副作用を呈せず 腸チブス・腸結核性下痢・裏急後重・腹病・産後の下痢等頑固なる病症に用ゐて驚く可き偉効あり

本藥詳細說明書申込み次第送呈仕候

東京市日本橋區久松町卅四 合資會社 バタソール商會 電話浪花二五三四 振替東京二三九六六

特約 朝鮮京城明治町二丁目六十三番地 東京島久商店 京城支店 電話一四四四番

目ぐすり中の目 登錄商標 岸田 目藥 精錡水

新刊書御案內

書名	著者	定價
朝鮮風俗集	今村鞆	一、八〇
朝鮮より	宮原網村	五五
學校體操の原理及敎育法	向井虎吉	一、五〇
伊勢神宮と我國體	廣池千九郎	一、二〇
英雄と修養(續編)	加藤咄堂	一、九〇
古今辭世集	飯田一畝	〇、七〇
印度文學講話	松村武雄	一、二〇
男女と貞操問題	岩野泡鳴	一、六五
野菊詩集	平井晚村	〇、三五
野火歌集	熊谷武雄	〇、七〇
セヴァストオポリ	鳥巢青峰譯	〇、八〇
幽芳集	菊地幽芳	一、二〇
戰に使して	楚人冠	一、六〇
銀笛	小杉天外	一、三〇
歌に入る迄	金子薰園	〇、七〇
熱い血と冷い頭	長谷川	一、〇〇
批評の要訣(縮刷)	小山上山	〇、七〇
解說力學(下卷)	西光	二、三〇
採鑛學(下卷)	山口義勝	三、三〇
日支交涉に依る帝國の利權	松本	〇、三〇
兩京去留誌	德富猪一郎	一、五〇

大阪屋號書店 京城本町 電話二〇八六番 振替京城二五五二

京城學校組合告示第三號

一ストーブ用煙筒參千四百八拾六個

此入札保證金各自見積價格百分ノ五以上入札者ハ滿二箇年以上所業ニ從事シ現ニ京城學校組合區域內ニ於テ國稅府稅又ハ當學校組合費年額三拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル

右供給請負望ノ者ハ當學校組合ニ就キ入札心得書契約書案書等熟覽ノ上來ル十六日午前十一時限リ當學校組合ニ入札スヘシ一時開札ス

此契約ハ京城府尹金谷充之ヲ擔任ス

大正四年十月十三日 京城學校組合

一石炭五百噸

右購買ス詳細ハ大正四年十月十四日以後ノ朝鮮總督府官報ヲ見ヨ 本府及所屬官署納

朝鮮總督府

物品購買入札 朝鮮駐箚軍經理部

一石炭(撫順塊炭)拾五萬五千貫匁

一木炭(根炭)壹萬貳千貫匁

右購買ハ入札ス詳細ハ十月十四日以降龍山及京城納ハ當部門前掲示ヲ見ヨ

大正三年十一月二十一日臨時株主總會ノ決議ニ依リ本年九月廿一日付朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ總資本金五十萬圓ヲ金十二萬圓ニ減少セリ各債權者ハ若シ異議アレハ大正四年十二月十三日迄ニ異議ヲ述フヘシ 商法第七十八條ニ依リ此ヲ公告ス

朝鮮貿易株式會社

千生瓢 (11)

須藤南翠作 筒井年峰畫

颶風の前(十二)

權平が一服の茶を啜み了ると、今度は茶碗を代へて、また一服薦められた。僅に七口の薄茶ではあるが、權平は滿身に春の溫もりが傳はつて緊張した筋骨が、倦怠くなるやうな感じがした。

『難有く頂戴仕りました』

『迷惑ぢやつらう。是も時の退屈凌ぎぢや。は丶は丶』

秀吉は湯がへしをして、器を收めながら。

『今度伊勢路亂入以來、花やかな手合せもなく、壯士輩は嘸不平もあらうが、懸命の合戰、最早遠い事もあるまい。まあ辛抱しやれ』

『不平とてはおざりませぬが、退屈に苦み居りまする。去りながら、御軍令に背かず、武勇の鍛練、懈怠致す者とてはおざり申さぬ』

『其何よりぢや』

秀吉は最も滿足の態に見えた。

『今日の戰ひも、最早これまでと相見える。明日は一益を一所に追籠めて、自滅させるまでの事ぢやよ』

『さらば、桑名城攻めおざりまするかッ』

權平は膝を推つて、びしや〳〵と敲きながら、接戰の快味を豫想してゐた。

『桑名はもう落ちたぢや』

『えツ、まだ一矢も射ぬ前に』

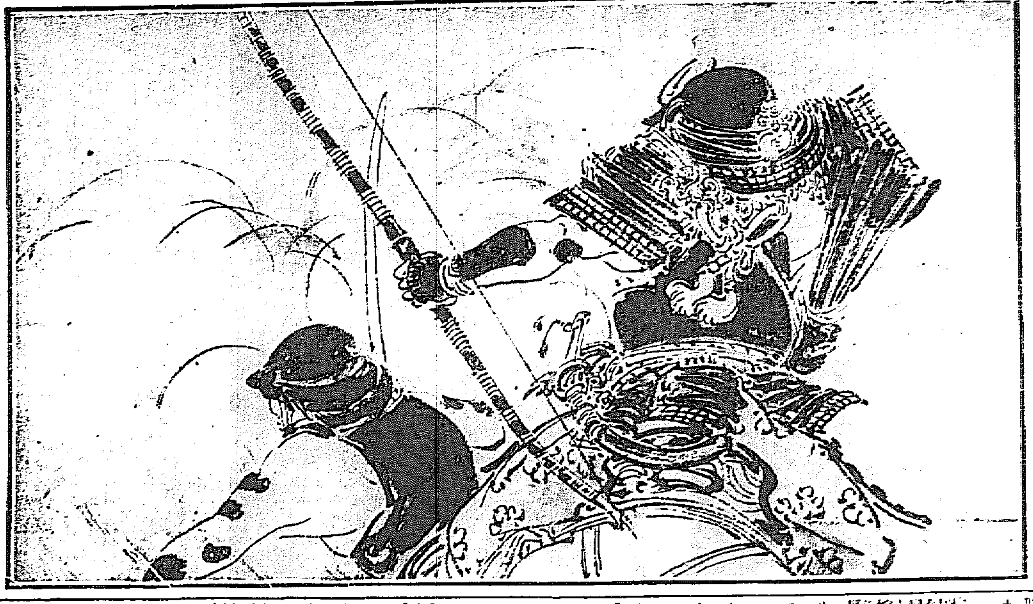
『左様ぢや、桑名へは足も止らぬ。但し今夜夜襲を仕かけようも知れぬ。大概、謀合期せず、其企ても虚しくならうずるが、其心構へ肝要ぞ。汝此れより馬を驅つて、瀬兵衛、與一郎に申し傳へい』

『畏りまいた。さらば免させられい』

『待て!』

秀吉は長泰を呼び留めて、

『猶申さうずる事おざつた。今夜瀧川より夜襲仕かくるならば、亥の刻より早い事はない。其前に不思議な事起りて、城兵ども立ち騷ぐであらう。去りながら、寄手に於ては、構へて追ひ擊つまじきぞ。さすれば戰はずして桑名、長島は落城致すわ。此義くれ〳〵も兩將に申し含められい』と、言ひ添へた。



不思議な事が何であるか、長泰は其を知りたいと思ひながら、深智遠謀、神の如き大將軍と信ずる秀吉が、心中の秘計を、探り問ふべきにもあらぬので、長泰は唯々として密室を退出した。

陣に歸ると直に馬に秣はせて、自分も花やかに甲ひ固めた。背に鷹の羽の矢を負うて、手に重籐の弓を携へ、駿足にうち跨ると、一鞭當て乘り出した。時は未刻を過ぎてゐる。西に廻つた日は伊勢平野を斜めに照らして、馬蹄を逃れ、武者草鞋にも踏まれなかつた畔の草が、黃に紫に咲き匂ふのが、如何にも哀れに優しかつた。

長泰が戰場に馳せ著けた時には、岡田忠興が蜂須賀小六[?]の鐵砲を脱れて目覺しい働きをなし、瀧川勢を切り捲つて、北ぐるを逐ひ行く時であつた。長泰は清秀に命を傳へ、また忠興にも其由を告げながら、馬を驅べて敵の後を逐つかけてゐた。

追擊が急なので、敵は足の立て途もなかつた。長泰が馬上なから見渡すと、馬を返しては轉戰し、看る看るうちに味方五六騎づゝ突き落すのは、瀧川方に去る者ありと聞えた、倉知、海老名、室山、水島の諸將であつた。敵ながら天晴の殿軍よと、感に堪へて見てゐるに、其處より十間ばかり先には、瀧川左近將監一益の落ち行く姿が目に入つた。長泰は遠矢の手練である。矢頭を計るに、慥かに仕損ずまじく思はれるので、上指取つてひき番へ、きり〳〵と引きしぼつて、熟く狙ひを定めながらひやうとばかり放つたのである。

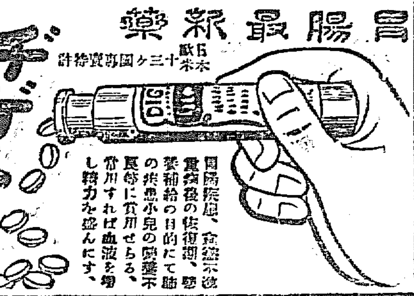
弦走りの音高く聞えて、其箭は飛んで一益の兜を射た。狙ひの少しく狂つたので、吹返しの板を射削り、兜の緖を射切つて、兜は忽然と地に落ちた、一益は大に驚いた、鞍上に俯伏して、一散に逃げ出す、長泰透さず二の矢を番つて、よつぴいて兵と放てば、倉地が鎧をがざと射貫き水島が押し付けの板より胸板かけ、矢先の白く現るゝまで射出したので兩將は一たまりもなく、馬より落ちて戰死した。

小兒病 外科 皮膚病 梅毒、淋疾 痔、肛門病 腦、耳鼻咽喉科 内科 (入院隨意)
島崎病院 京城旭町(電話二七三六番) 診察時間 午前八時より午後五時まで
隔離病室 傳染病室 院長 島崎龍一

入院隨意 胃腸病院 京城南大門通三丁目(舊木浦商館入る) 院主 佐々木杏造 電話一六五九番

冷卸發賣
大阪府堺市 釀造發賣元 肥塚源次郎
特約販賣店 京城本町二丁目 佐藤牧太郎
特約販賣店 同本町三丁目 明治屋支店

胃腸最新藥 チゲスチン 歐米五ケ國十三 特許專賣
胃腸疾患、食慾不進 重病後の恢復期、營養補給の目的にて胃腸の弱い小兒の發育不良等に賞用せらる、常用すれば血液を增し精力を盛んにす。
說明書進呈 東京本町 合資會社 園城商會[?]



つわり湯 安產の基
村井醫學博士推薦 濱田家伯先生發行
紙屋藥樂園

結婚せんとする男女へ
男女性慾新話
和樂の秘訣 男女の研究
有名堂 振替東京二七四七三

品質本位
登録商標 エンプレス石鹸 秋香舎謹製
あらゆる石鹸を凌駕し一般家庭の常備として愛用せらるゝ石鹸は即ち是れ!
本舗 大阪 萩原秋香舍
販賣店は全國到る處にあり

皇后陛下 各宮妃殿下御嘉納
光榮無上 二條公爵 土方伯爵 大原伯爵 御後援
東京に於ける貴族の御家庭では必ずミルドを賞用せらる
ミルド化粧液
いろを白くしやきめを能くする不思議の特効あり
二博士證明 五學士創製
東京 ミルド商會

散歩で消化と苦けし 仁丹 登りましたか
金言 最大なる出來事は多く偶然なり(各國俚諺)
仁丹一粒、イ、氣持!

日本の白粉と言へば レート白粉一ツの様に世界各國の交際社會で評判せらるゝ
宮内省御用 皇后宮職御用 各宮家御用
レート白粉 のりのび天下一品
東京 平尾贊平 大阪

京城鍾路 太平堂名刺舗 電話二七一二 振替三三六七 地方は郵送料不要

朝鮮郵船 出帆

本社 電話長一九五二番二三番
郵便及び外國郵便と荷客運搬の便あり、詳細は支店、出張所、代理店、荷客取扱店に御照會相成度
京城南大門驛前 京城荷客取次店 松原運送店(電話長一七〇)

門司より釜山各港寄港雄基間ごと
全羅丸 十月十五日
京畿丸 十月廿五日
黃海丸 十月廿九日
咸鏡丸 十月十九日 釜山發
昌平丸 十月二十日 元山發
鏡城丸 十月十六日 元山より各港經由雄基行 元山發
竹丸 十月廿四日 元山發
忠清丸 十月十四日 元山發 慶興、浦鹽行直航釜山經由門司
永興丸 毎月廿八回 元山發 北久味、五里浦行 又は長崎延長
嘉島丸 十月十六日 甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行 釜山發
江陵丸 襄陽丸 毎日(釜山浦項)發 長生浦、方魚津寄港
三浦丸 十月十四日 釜山發 長承浦、麗水、巨文島、濟州島各港行
濟州丸 巨濟丸 慶州丸 毎日 釜山發 各港經由木浦行(三日目一回木浦行)
順天丸 三日目毎 木浦發 各港經由麗水行麗水より釜山行に接續
慶興丸 十月十七日 木浦發 各港經由濟州島行(月八回)
公州丸 十月廿三日 木浦發 南多島海列島行(月三回)
全信丸 十月二十日 仁川發 海州他各港經由、鎭南浦行
江原丸 十月十六日 仁川發 大連、青島行
龍水丸 十月十九日 仁川發
普州丸 十月十四日 仁川發 各港經由木浦行
全州丸 南陽丸 毎日午前 仁川發 江華島、喬桐島、海州行
平安丸 十一月十三日 十月十六日 群山發 若松發 往航 大黑山、木浦、門司、若松行 復航門司、木浦、群山行

日本郵船仁川出帆

○大連太沽牛莊行
高砂丸 十月廿一日 正午出帆
三河丸 十一月八日 正午出帆
相模丸 十一月三十日 正午出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番 堀回漕部

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸大阪行
秀吉丸 十月二十日 後四時出帆
君が代丸 十月廿日 後四時出帆
神代丸 十月十六日 後四時出帆
大有丸 十月十八日 後五時出帆
第二太湖丸 十月 日 後四時出帆
○群山、大阪行
土海丸
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行
小倉丸 十月廿六日後五時出帆
○元山城津浦鹽行
小倉丸 十月十四日後十時出帆
立神丸 十月十九日後五時出帆 門司、神戸、大阪行
○元山、清津、浦鹽行
立神丸 十月廿八日後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行
第三琴平丸 十月廿二日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三琴平丸 十月 日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
天長丸 毎月二日九日十六日廿三日 午後十時出帆
釜山海岸通二丁目 本船取扱店 大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆

○東京、大阪、神戸、門司、芝罘、大連行
第十共同丸 十月十五日前九時出帆 十月十五日後七時入港
大連にて南滿州鐵道 青島行定期船に接續 同船取扱ひ 本社及び各地にて 通し切符發賣

第一阪鶴丸(元山出帆)
城津、清津、浦鹽行(元山出帆) 月 日 後九時出港

第三共同丸 十月十五日 十月十六日前八時出帆
西湖津沿岸各港を經て雄基行

阿波國共同汽船株式會社 本町一丁目(電話一〇八番)
仁川代理店 山下回漕部
元山代理店 田口回漕部(電話二四七番)
京城取次店 南大門通 河村運送店(電話二一六八、二〇一七)

大阪商船仁川出帆

中國四國沿岸各港行一割引を以て通し切符發賣仕候
○外航所歸航路(臨時航路を除く)同連絡便乘船の時は五分引を以て通し切符發賣仕候
○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行
宮島丸 十月十九日 午後五時出帆
漢城丸 十月廿二日
溫州丸 十月十五日
○木浦、釜山、長崎行 ▲は嚴原港に寄港
安東丸 十月廿四日 午後二時出帆
▲天智丸 十月十八日
○鎭南浦、大連行
安東丸 十月二十日 午後二時出帆
天智丸 十月 日
○鎭南浦、關門、神戸、大阪行
月 日 正午出帆
月 日 五時出帆
○群山、釜山、横濱行
千珠丸 十一月一日 午後四時出帆
チヨイサン丸 十月廿一日
○大連直行
千珠丸 十月廿七日 正午出帆
チヨイサン丸 十月十六日
○元山、清津、浦潮行(釜山出帆) ▲は城津西湖津に寄港浦汐不寄港
久丸 十月十九日 午後九時出帆
地宮丸 十月廿九日
▲城津丸 十月十四日
○上海、基隆、打狗行(大連出帆)
基高隆丸 十月廿九日 午後四時出帆
新高丸 十一月六日

御注意
○朝鮮鐵道及滿洲鐵道各驛と本社との船車連絡切符發賣仕候
○御乘船客は本船出帆約一時間前に御乘船相成度候
○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二二番 二〇番 五五〇番
京城切符發賣所 内國通運會社支店 電話七八〇番